NEC

ＮＥＣ　Ｅｘｐｒｅｓｓ５８００シリーズ

UL1131－508

音声・FAX処理ボードサポートソフトウェア　Ver5.0 Rev011

856-123092-001-I

『はじめに』

この度は、弊社製品をお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。

本マニュアルでは、音声・FAX処理ボードサポートソフトウェア　Ver5.0 Rev011 [SR6.0 SU241]のインストール方法、注意事項などについてご説明します。

本製品は、以下のオペレーティングシステムで音声・FAX処理システムを実現するための基本機能を提供します。

オペレーティングシステム名	省略名
Microsoft® Windows Server® 2008 Standard	Windows Server 2008
Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition	Windows Server 2003
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition	

・Microsoft, Windows Serverは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
・本製品はWindows Server 2008 R2、Windows Server 2008 (64bit)、および、Windows Server 2003 64-bit (x64) Editionには対応していません。
・本製品はWindows Server 2008 のServer Core、および、Hyper-Vには対応していません。

『ご注意』

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告無しに変更することがあります。
(3) 弊社の許可無く複製・改変などを行うことはできません。
(4) 本書の内容については万全を期して作成しましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
(5) 運用した結果の影響については、4項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。

輸出に関する注意事項

**本製品(ソフトウェア)は国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。
本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
また、当社は本製品に関し海外での保守サービス、および技術サポート等は行っておりません。**

856-123092-001-I

【目次】

第１章 インストールの前に 1

第２章 音声・FAX処理ボードサポートソフトウェアのインストール 2

第３章 音声・FAX処理ボードの設定 15

第 1 節　DCM設定の初期化 15
第 2 節　パラメータの設定 18
第 3 節　CSPファームウェアの設定 21

第４章 DCMサービスの開始/停止/自動起動の設定 24

第 1 節　DCMサービスの開始 24
第 2 節　DCMサービスの停止 26
第 3 節　DCMサービスの自動起動の設定 28
第 4 節　DCMサービスの自動起動の解除 30

第５章 音声・FAX処理ボードの追加/交換 32

第６章 音声・FAX処理ボードサポートソフトウェアのアンインストール 37

第７章 ログ情報ファイルについて 41

第８章 PBX Expertについて 44

第９章 注意事項 55

第１章 インストールの前に

音声・FAX 処理ボードサポートソフトウェアは、下記のハードウェア環境で動作します。インストール先の環境が、下記の内容に適合していることを確認してください。

項目	内容
機種	Express5800/100 シリーズ
対応 OS (32bit OS のみ対応)	Windows Server 2008 SP1 Windows Server 2003 R2 SP2 Windows Server 2003 R2 Windows Server 2003 SP2 Windows Server 2003 SP1 Windows Server 2003
ハードディスクの空き容量	600MB 以上
搭載メモリ	512MB 以上
音声・FAX 処理ボード	N8104-96 12 回線音声処理ボード D/120JCT-LS N8104-95 4 回線音声処理ボード D/41JCT-LS N8104-94 4 回線音声･FAX 処理ボード VFX/41JCT-LS

注意

- 本製品は Windows Server 2008 R2、Windows Server 2008 (64bit)、および、Windows Server 2003 64-bit(x64) Edition には対応していません。
- 本製品は Windows Server 2008 の Server Core、および、Hyper-V には対応していません
- 本製品は Windows Server 2008 (32bit) の PAE(Physical Address Extensions)には対応していません。
- Administrator でログオンし、作業を実施してください。
- 新規に音声・FAX 処理ボードサポートソフトウェアをインストールする際は、以下の順番で行うことを推奨します。
  (1) オペレーティングシステム
  (2) 音声・FAX 処理ボードサポートソフトウェア
  (3) 他のアプリケーション

第２章 音声・FAX処理ボードサポートソフトウェアのインストール

本章では、音声・FAX 処理ボードサポートソフトウェア Ver5.0 Rev011 をインストールする手順について説明します。

注意

OS 環境により、使用するインストール媒体が異なります。
インストール媒体を確認の上、インストールを実施してください。
[Windows Server 2003 環境にインストールする場合]
音声・FAX 処理サポートソフトウェア Ver5.0 for Windows 2003
[Windows Server 2008 環境にインストールする場合]
音声・FAX 処理サポートソフトウェア Ver5.0 for Windows 2008

ヒント

詳しい説明が必要な場合は、音声･FAX 処理ボードサポートソフトウェア Ver5.0 Rev011 の CD-ROM より、¥doc¥pdffiles フォルダのドキュメントを参照してください。

※ここでは音声・FAX 処理ボードの設定手順について、12 回線音声処理ボードを例に説明します。

1. 音声・FAX 処理ボードを取り付け、オペレーティングシステムを起動します。

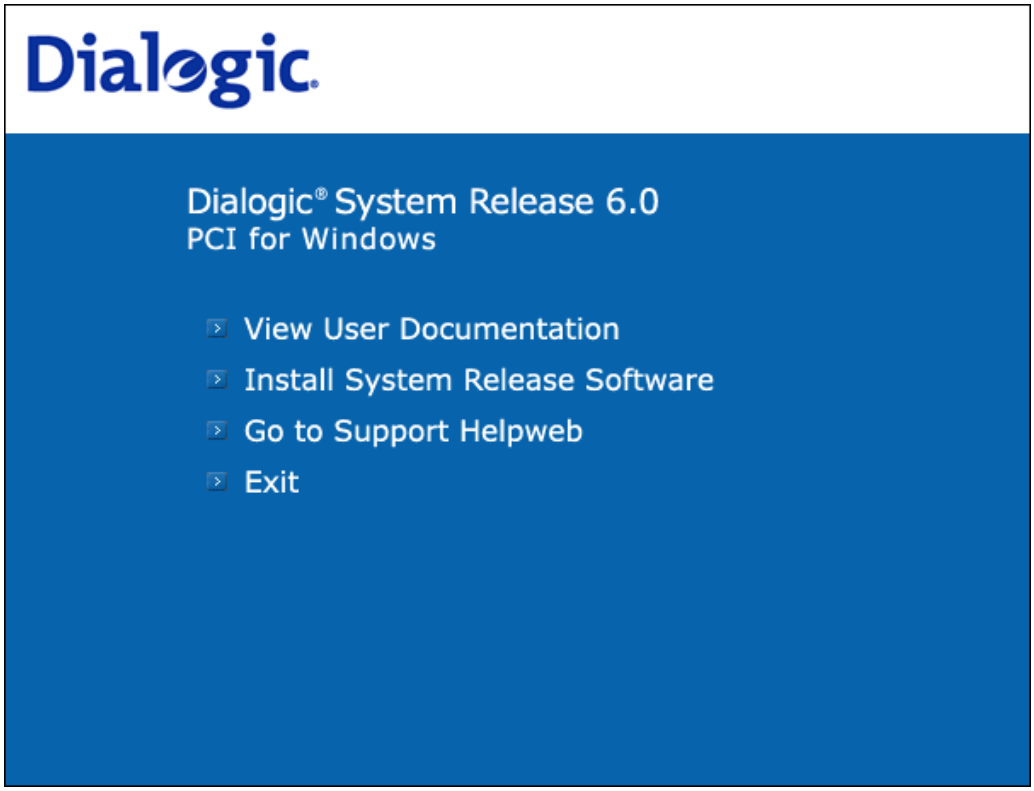
注意

音声・FAX 処理ボードの取り付け方法に関しては、ボード取り扱い説明書の記載事項にしたがってください。

2. システムを起動するとプラグアンドプレイによる[新しいハードウェアの検出ウィザード]が起動しますが、[キャンセル]をクリックします。

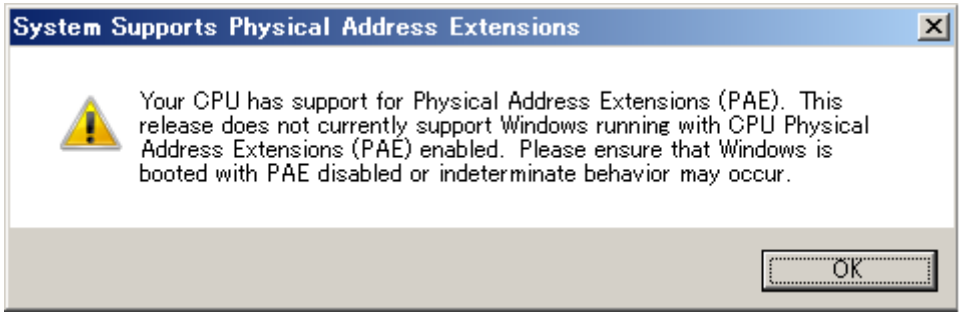
3. 音声・FAX処理サポートソフトウェアをインストールする前に、ループバックインタフェースのためにTCPポートの 12001、12004、および 12005 とTCPポート 12002 が利用できることを確認してください。確認方法は「第９章 注意事項」の (5) TCPポートの確認 を参照してください。

4. 音声・FAX 処理ボードサポートソフトウェア Ver5.0 Rev011 の CD-ROM をドライブに挿入すると、以下の画面が表示されますので、[Install System Release Software]をクリックします。以下の画面が表示されない場合は、CD-ROM のルートフォルダにある Setup.exe を実行してください。

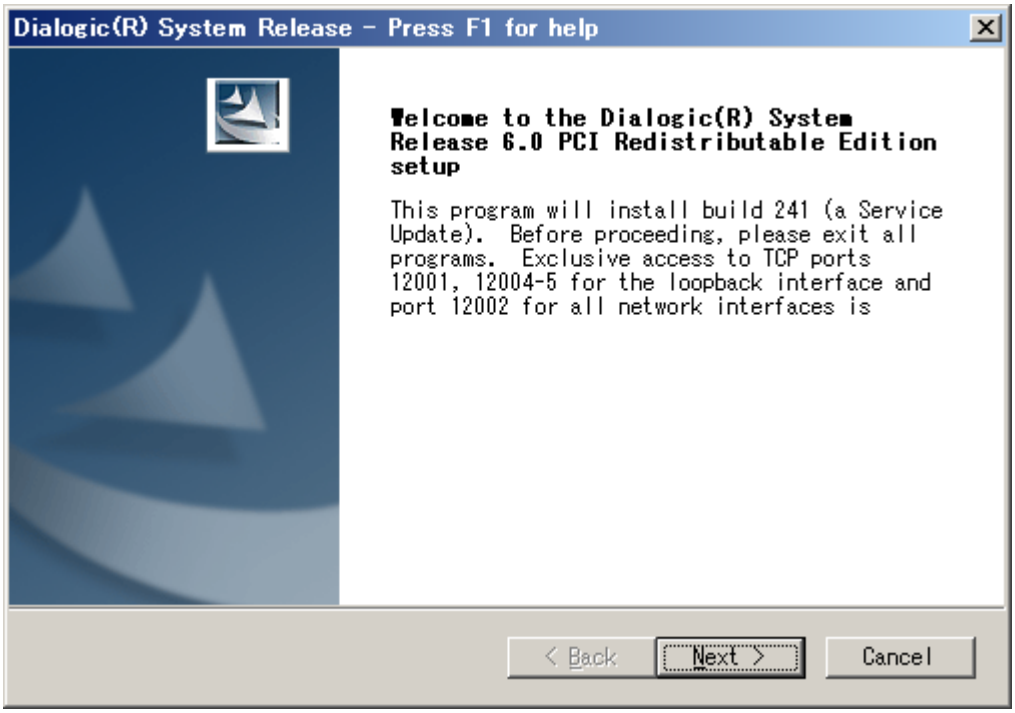


⚠注意

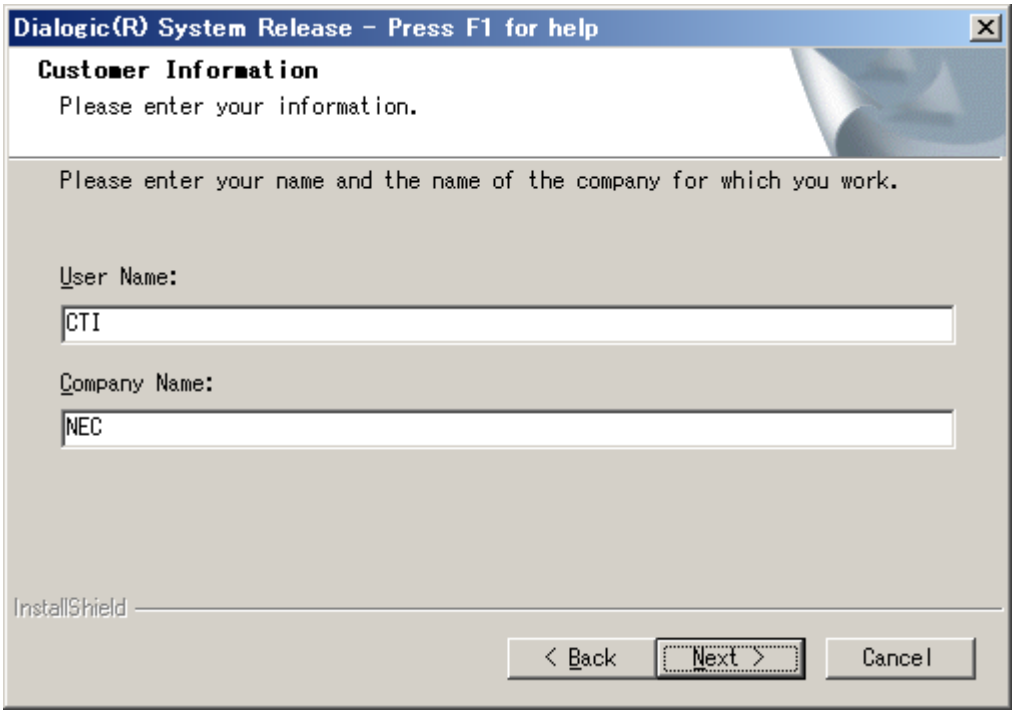
本製品は Windows Server 2008 (32bit) の PAE(Physical Address Extensions)には対応していません。以下の画面が表示される場合は、PAE が有効になっています。
本体装置のユーザーズガイドを参照し、システム BIOS の「Execute Disable Bit」を「Disabled」に設定してください。



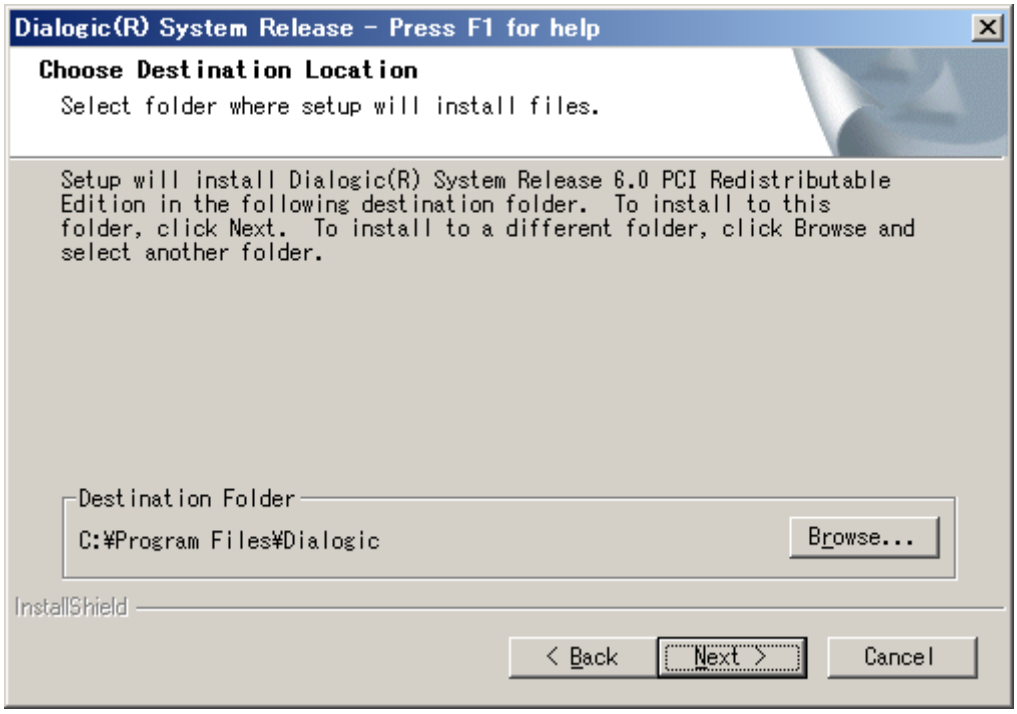
5. Setup 開始画面が表示されますので、[Next]をクリックします。



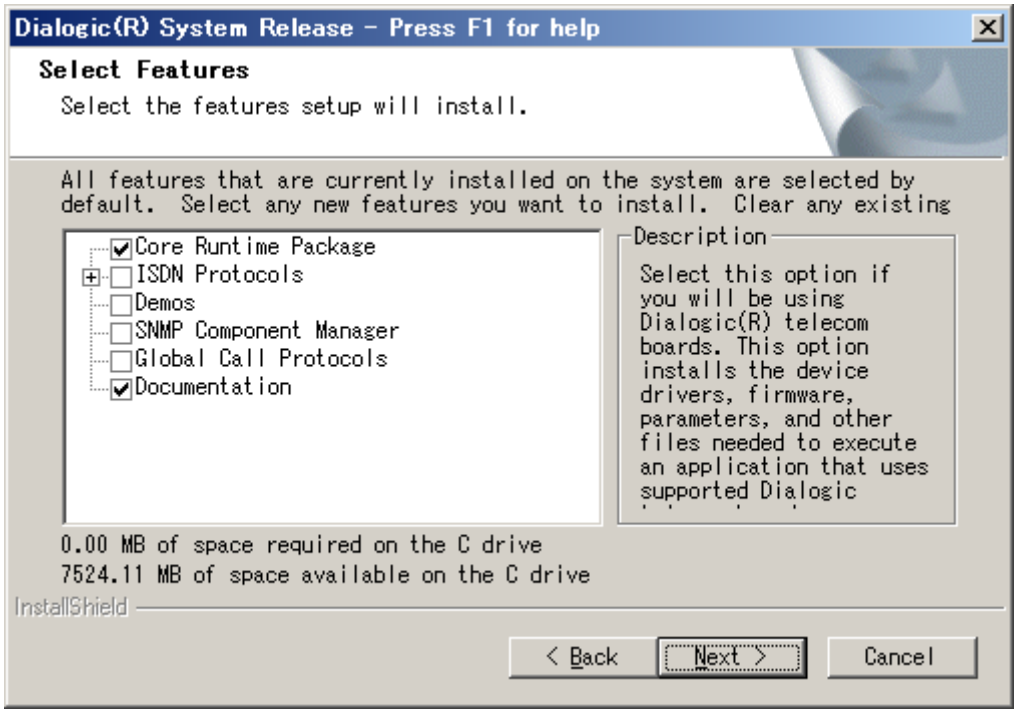
6. ユーザ情報の入力画面が表示されますので、[User Name]と[Company Name]を入力し、[Next]をクリックします。



7. インストール先の選択画面が表示されますので、インストール先を変更する場合、[Browse]をクリックし、インストール先を選択します。インストール先に問題がなければ、[Next]をクリックします。



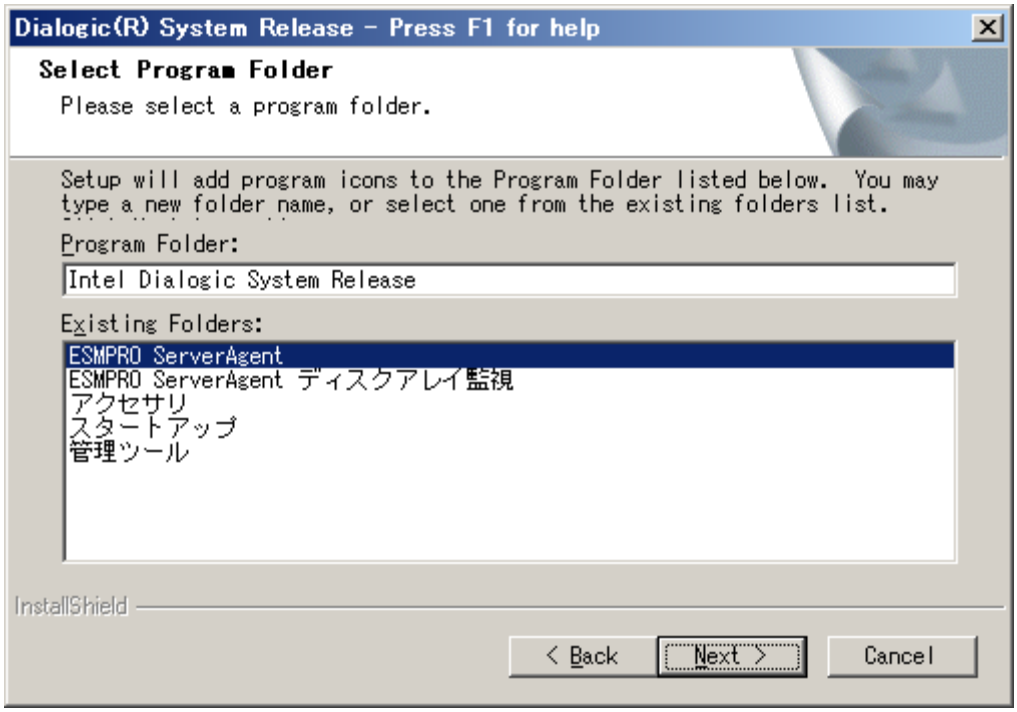
8. [Core Runtime Package]と[Documentation]にチェックを入れ、[Next]をクリックします。



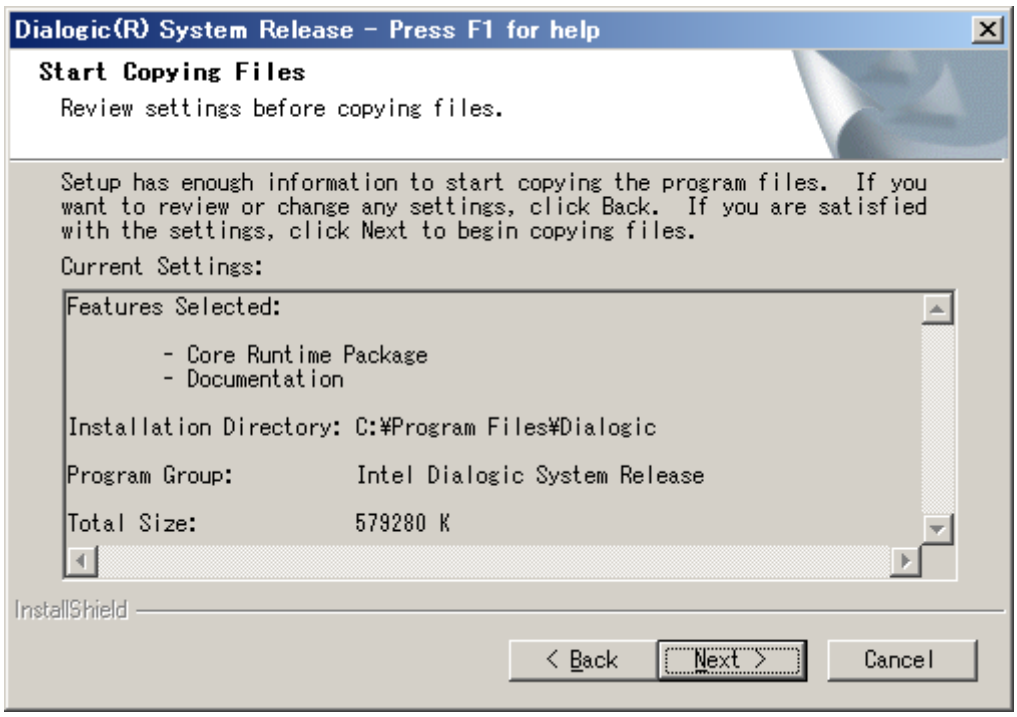
9. 音声・FAX 処理ボードソフトウェアを動作させるために必要なソフトウェアの確認画面が表示されます。[はい]をクリックします。

10. 以下の警告画面が表示されることがありますが、運用上問題はありません。[OK]をクリックします。

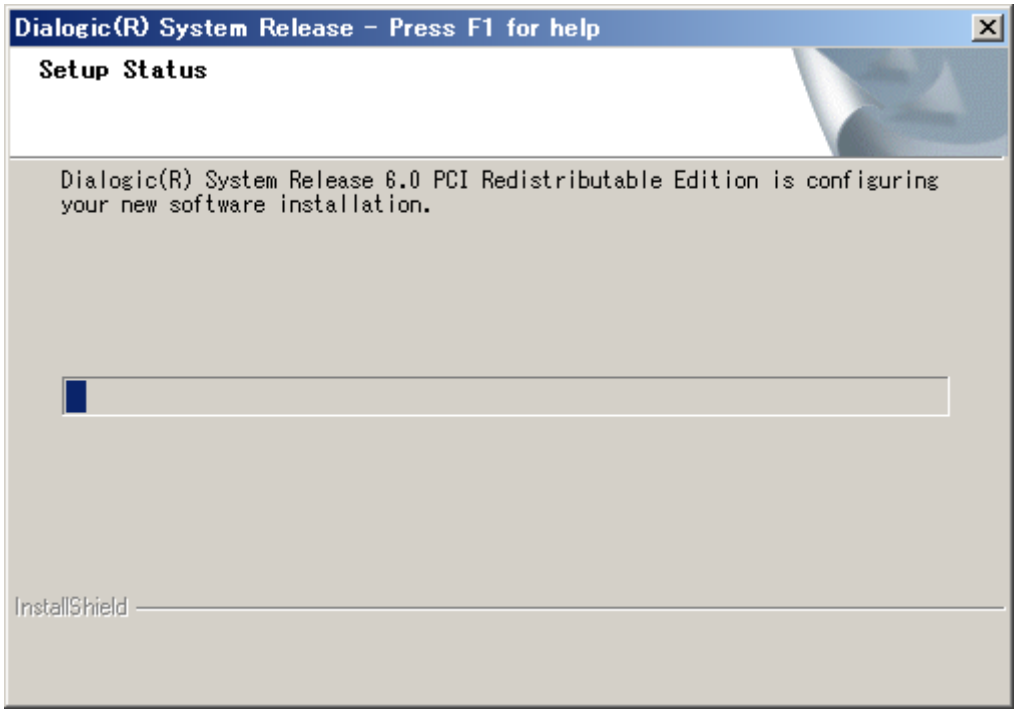
11. フォルダ名の変更画面が表示されます。問題がなければ、[Next]をクリックします。



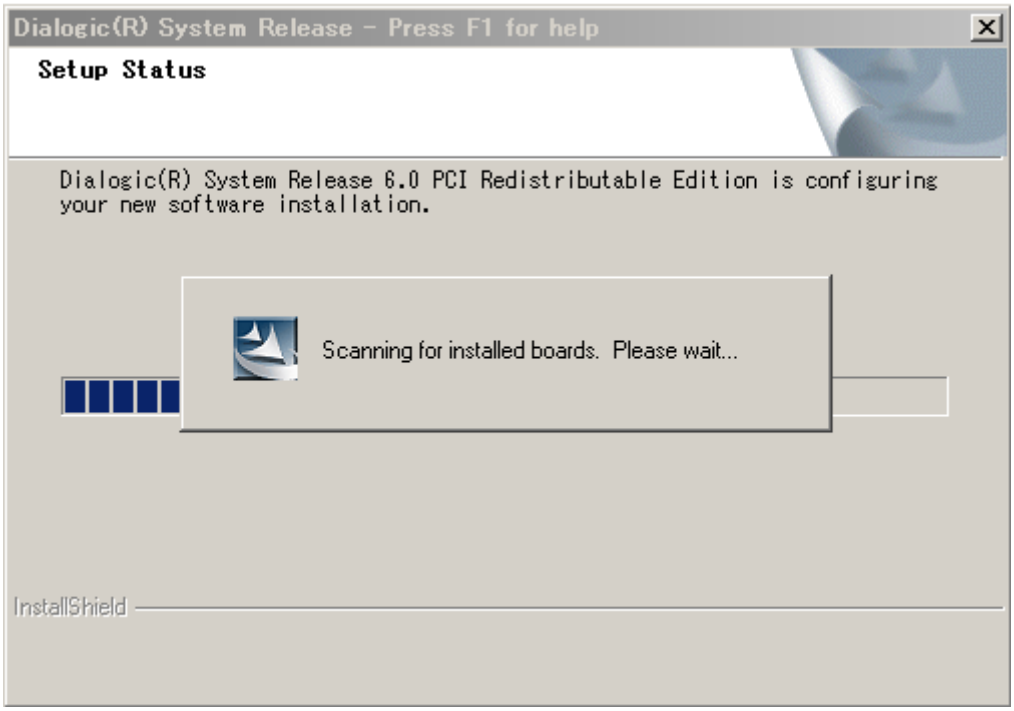
12. インストール内容の確認画面が表示されます。問題がなければ、[Next]をクリックします。



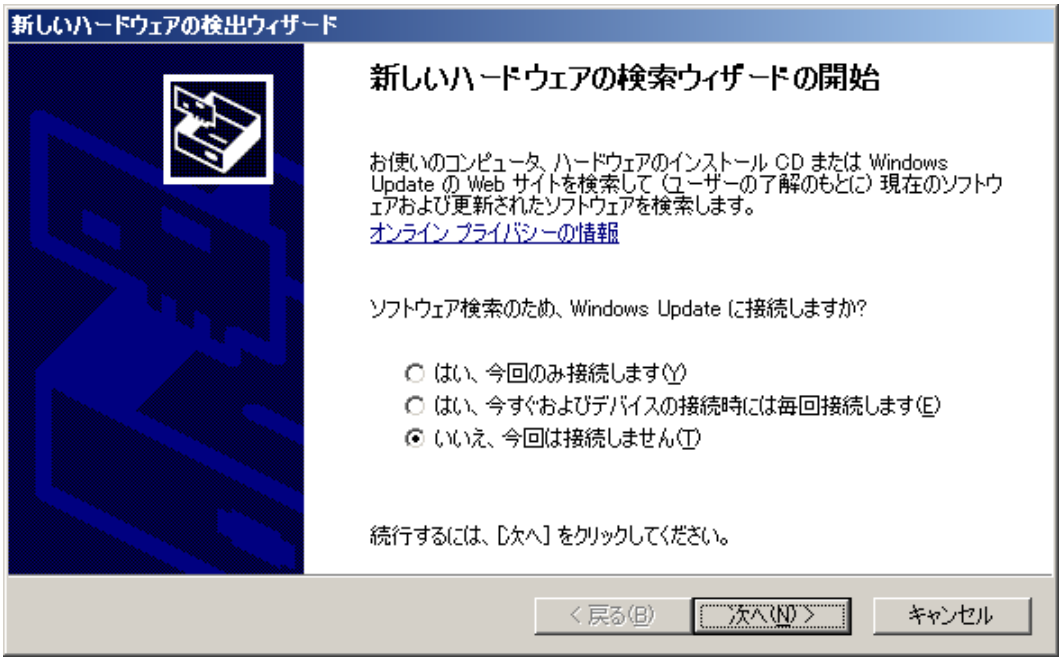
13. インストールが始まります。



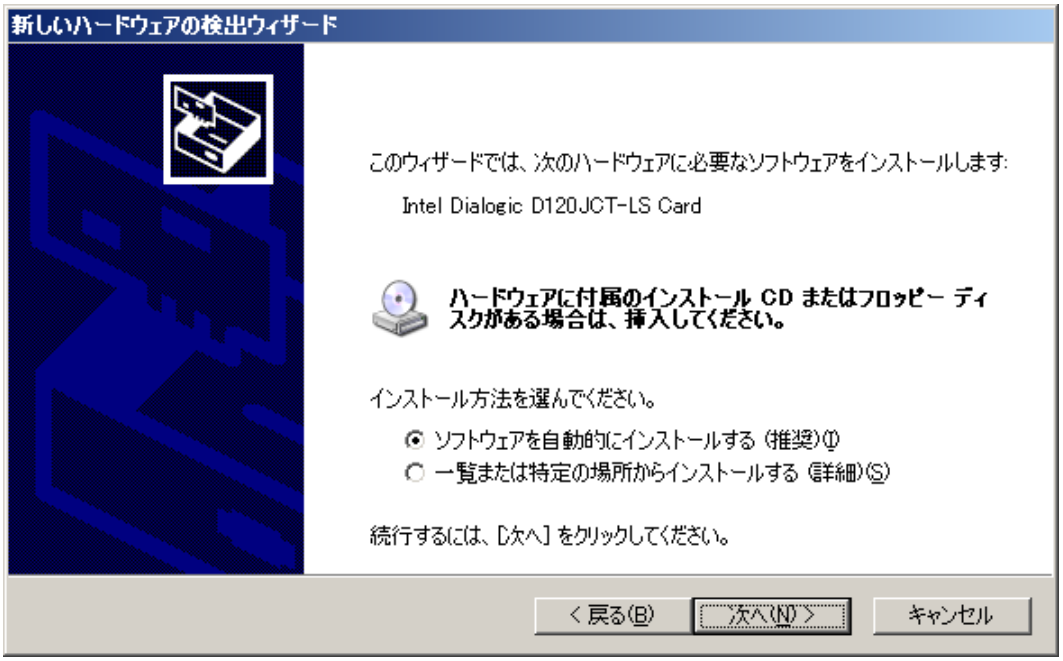
14. 以下の画面でインストールが一時停止され、デバイスの検出が始まります。



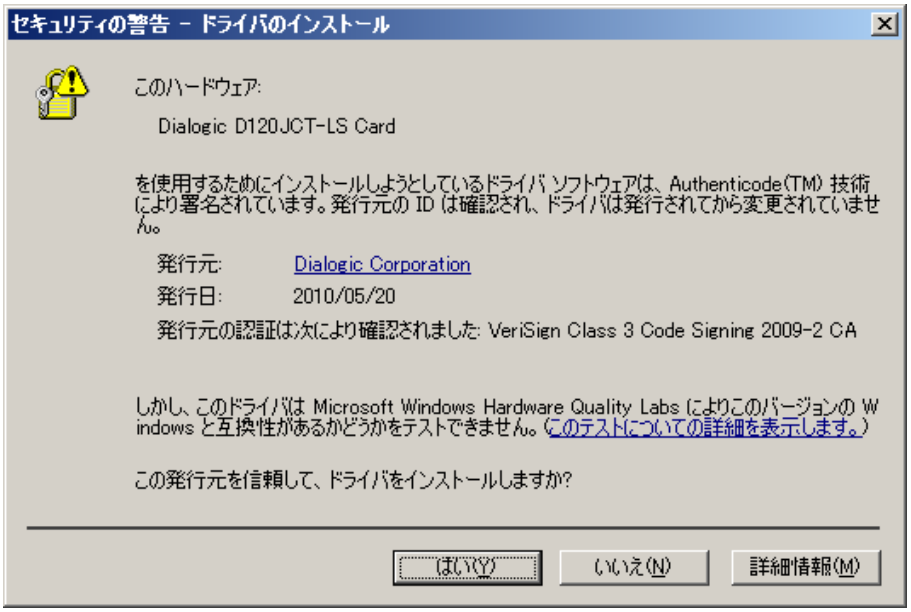
15. 新しいハードウェアが検出されますので、[いいえ、今回は接続しません]を選択し、[次へ]をクリックします。



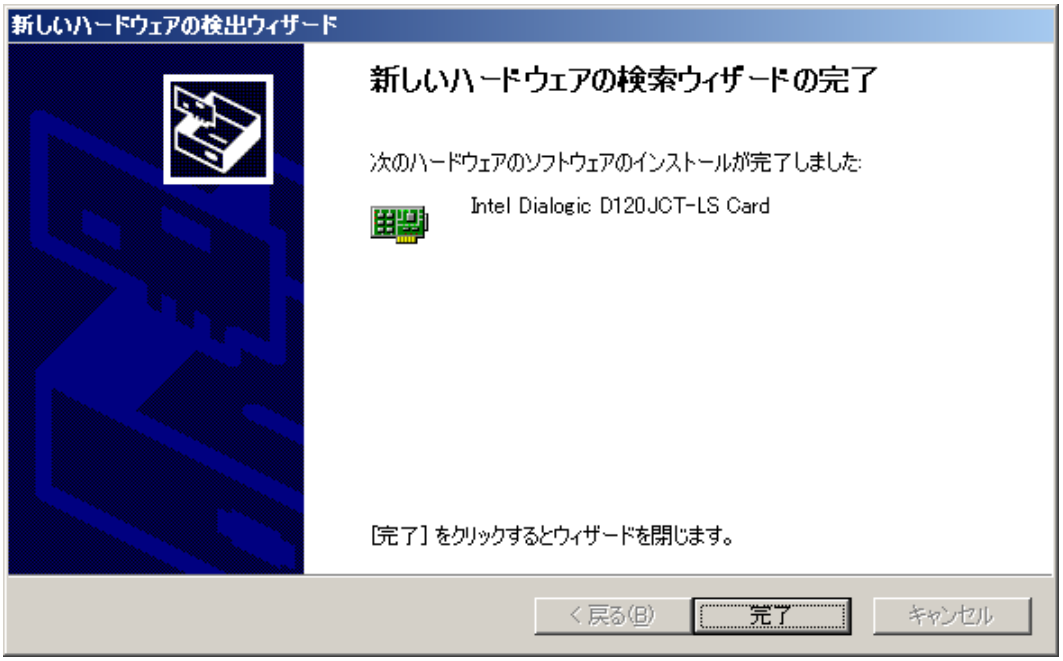
16. [ソフトウェアを自動的にインストールする]を選択し、[次へ]をクリックします。



17. デジタル署名の警告が表示されますが、運用上問題はありません。[はい]をクリックします。



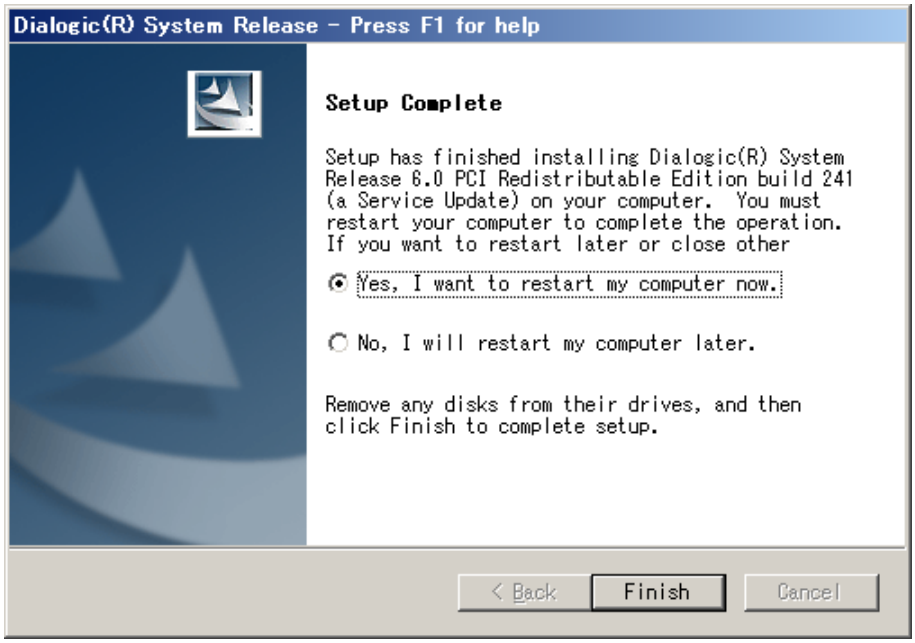
18. ソフトウェアのインストール完了後、以下の画面が表示されますので、[完了]をクリックします。



注意

音声・FAX 処理ボードが複数枚搭載されている場合は、デバイスの検出がすべて完了するまで、項番 14～17 を繰り返し行ってください。

19. すべてのソフトウェアがインストールされたことを確認後、[Finish]をクリックし、システムを再起動します。



20. レジストリ削除ツール(DELREG.VBS)を実行します。音声・FAX 処理ボードサポートソフトウェアの CD-ROM に格納している、レジストリ削除ツール(DELREG.VBS)をエクスプローラなどでダブルクリックし、起動します。

ヒント

レジストリ削除ツール(DELREG.VBS)は、音声・FAX 処理ボードサポートソフトウェアの CD-ROM の、¥レジストリ削除ツール に格納しています。

21. 「レジストリの削除に成功しました」とポップアップが表示されれば、レジストリ削除ツールの実行は正常に完了です。

ヒント

以下のポップアップが表示された場合、ツールによるレジストリ削除に失敗しています。NEC カスタマサポートセンタにお問い合わせください。

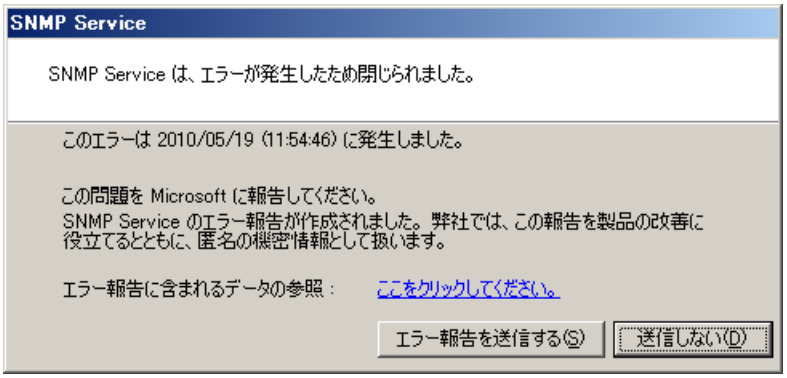
22. システムを再起動します。

注意

項番 23～28 は、Windows Server 2003 環境の場合に設定が必要です。Windows Server 2008 環境の場合は、設定は不要です。

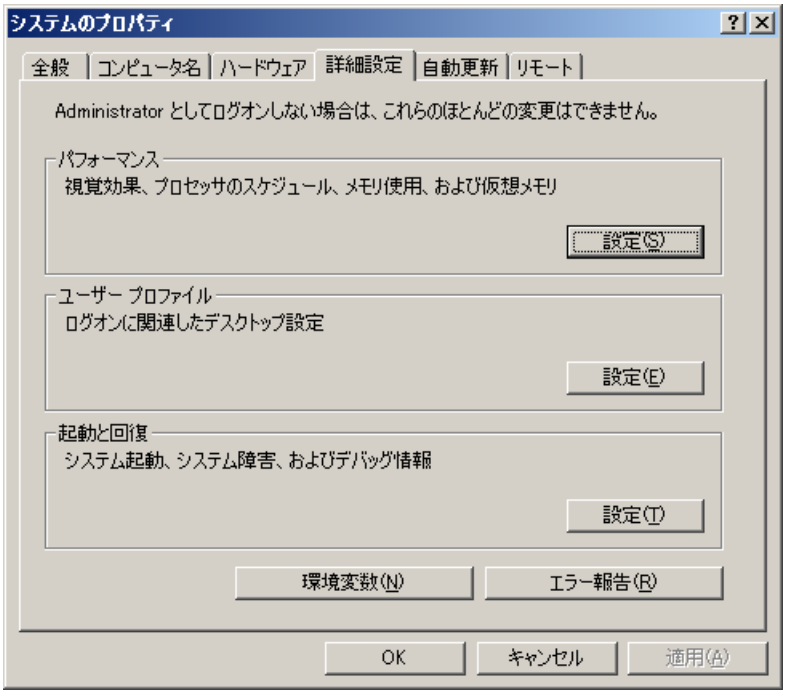
23. データ実行防止のウィンドウが表示されます。[メッセージを閉じる]をクリックします。

24. [SNMP Service]のエラーウィンドウが表示されます。[送信しない]をクリックします。

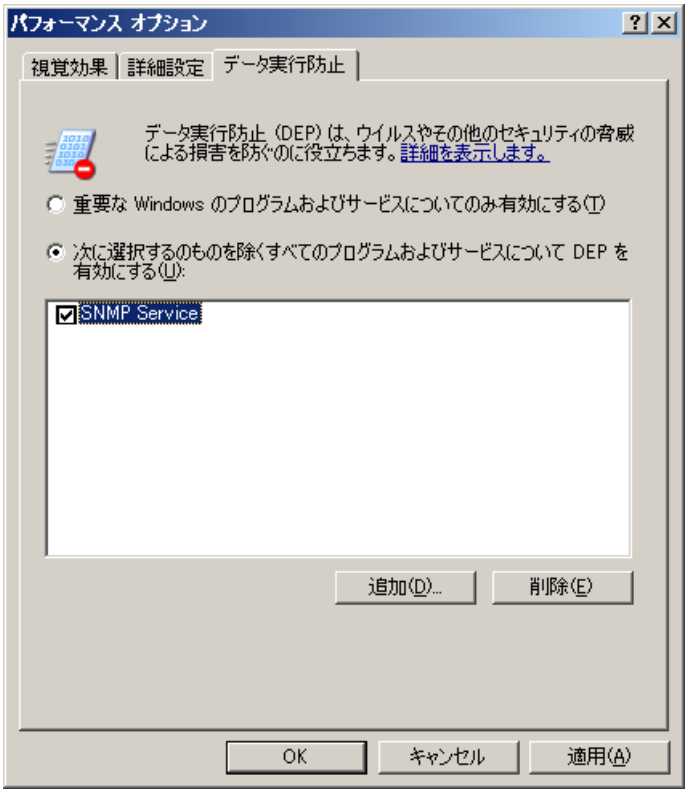


25. [マイコンピュータ]の[プロパティ]をクリックし、[システムのプロパティ]を開きます。

26. [詳細設定]タブを開き、[パフォーマンス]の[設定]をクリックし、[パフォーマンスオプション]を開きます。



27. [データ実行防止]タブを開き、[SNMP Service]にチェックし、[削除]をクリックします。



28. システムを再起動します。

29. 以上で、音声・FAX 処理ボードサポートソフトウェアのインストールは完了です。

第３章 音声・FAX処理ボードの設定

本章では、音声・FAX 処理ボードの設定に関する、以下の項目について説明します。

第1節　DCM 設定の初期化
第2節　パラメータの設定
第3節　CSP ファームウェアの設定

ヒント

詳しい説明が必要な場合は、[スタート]－[すべてのプログラム]－[Intel Dialogic System Release]－[Online Documentation]を参照してください。

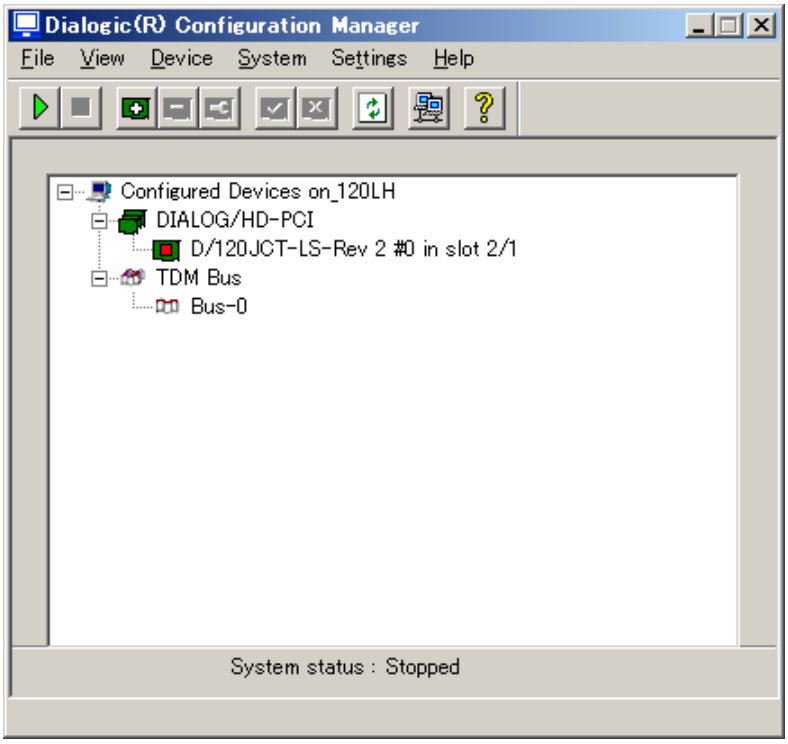
注意

第 1 節、および第 2 節の設定は、音声・FAX 処理ボードサポートソフトウェアをインストールした際に、必ず設定してください。正しく設定されていない場合、誤動作の原因になります。

※ここでは音声・FAX 処理ボードの設定手順について、12 回線音声処理ボードを例に説明します。

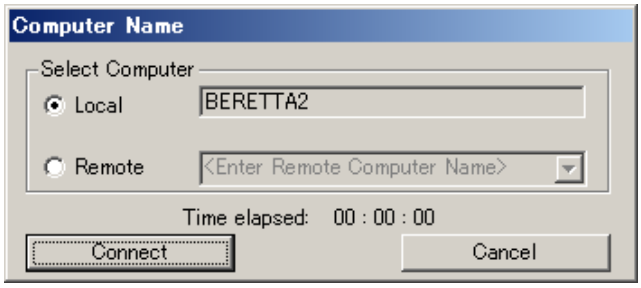
第1節 DCM設定の初期化

1. [スタート]－[すべてのプログラム]－[Intel Dialogic System Release]－[Configuration Manager - DCM]をクリックし、DCM を起動します。

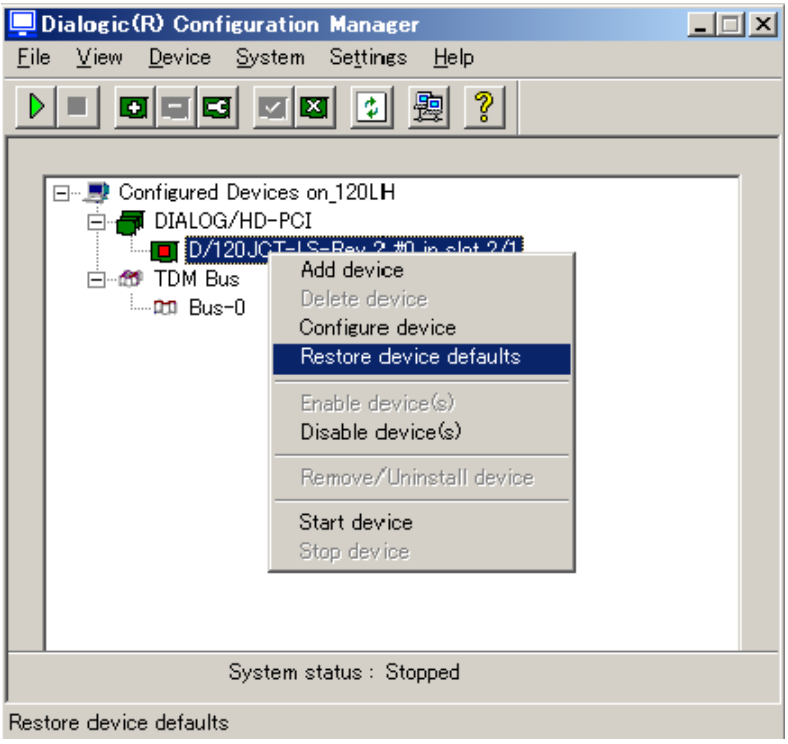


⚠注意

・以下の画面が表示される場合があります。[Connect]をクリックします。

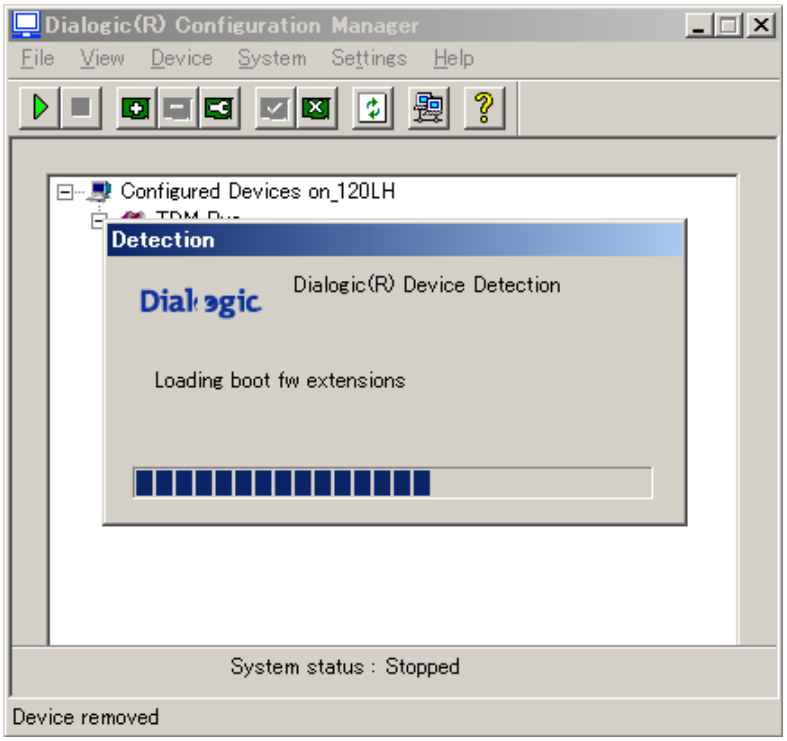


2. 画面上の搭載ボードを右クリックし、[Restore device defaults]を選択します。

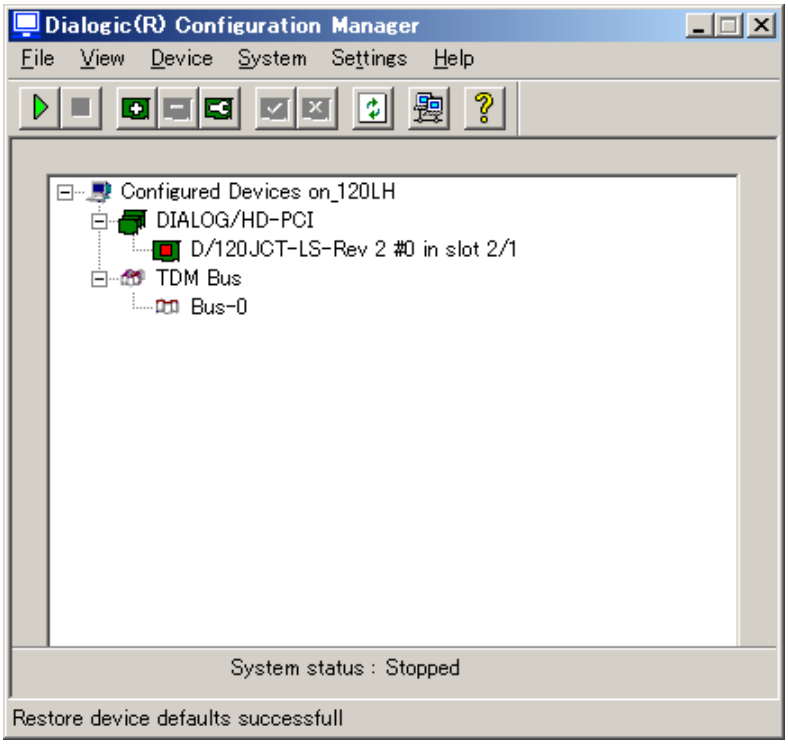


3. 初期化の警告画面が表示されます。[はい]をクリックします。

4.　初期化が開始されます。



5.　画面の左下に、[Restore device defaults successful]とメッセージが表示されると、DCM 設定の初期化は完了です。

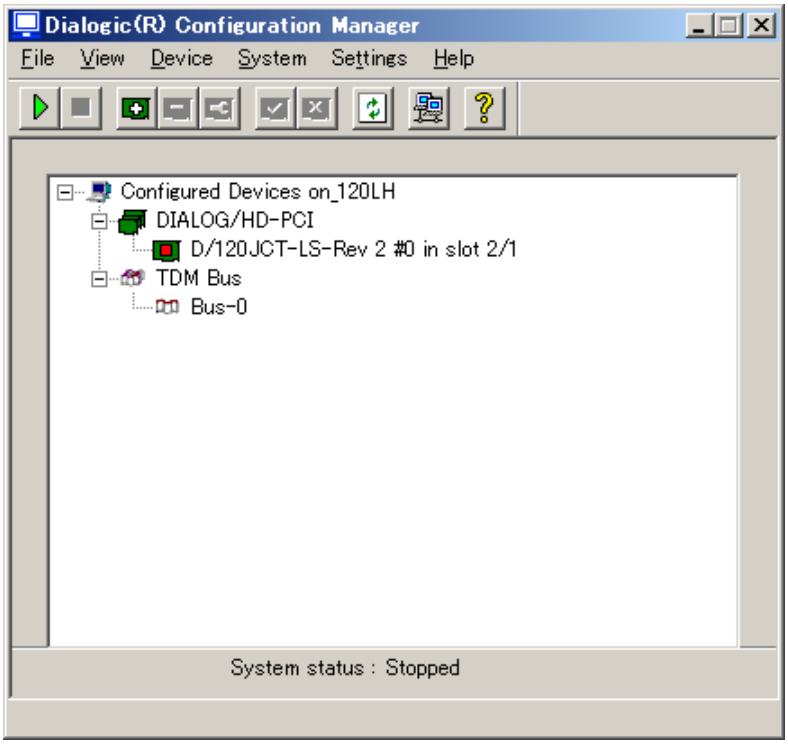


第2節 パラメータの設定

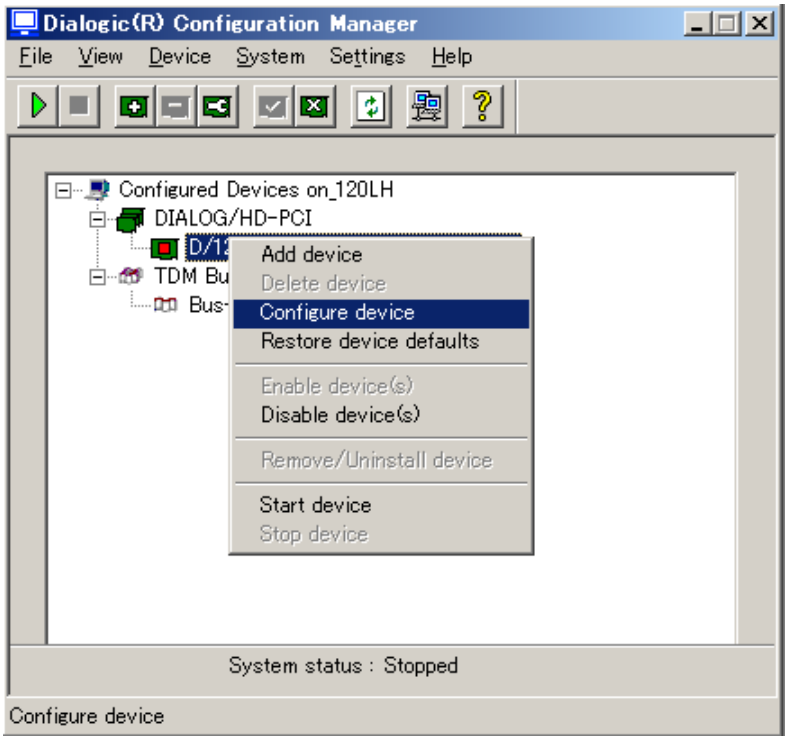
注意

設定は音声・FAX 処理ボード毎に有効になるため、音声・FAX 処理ボードが複数枚搭載されている場合は、すべての音声・FAX 処理ボードに設定してください。

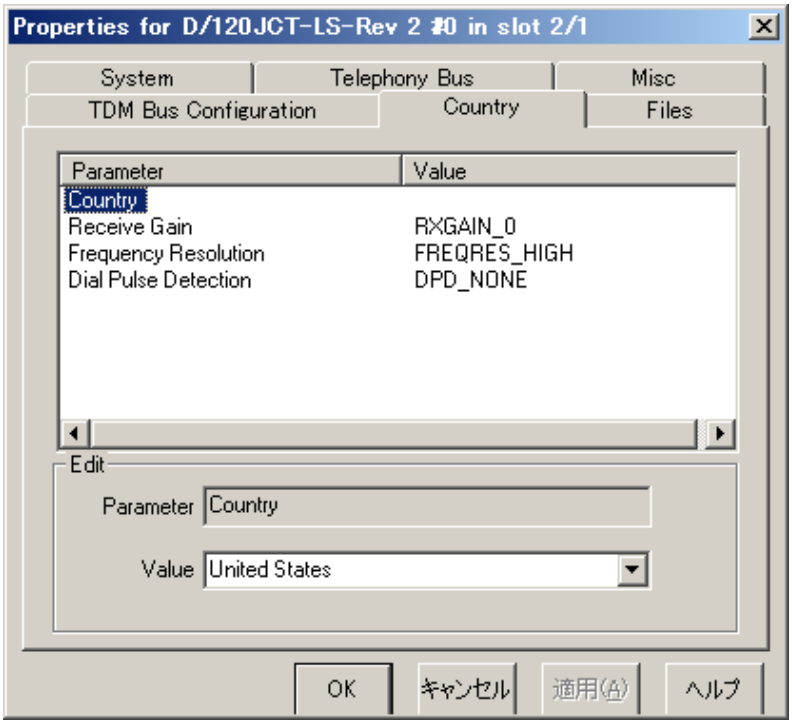
1. [スタート]－[すべてのプログラム]－[Intel Dialogic System Release]－[Configuration Manager - DCM]をクリックし、DCM を起動します。



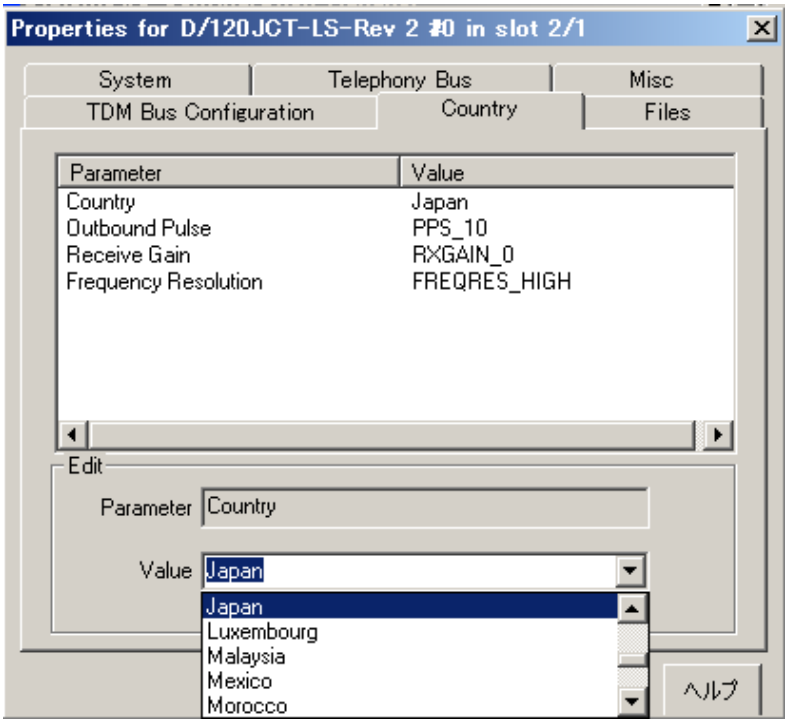
2.　画面上の搭載ボードを右クリックし、[Configure device]を選択します。



3.　[Country]タブを開き、[Parameter]内の[Country]を選択します。



4.　[Value]のプルダウンメニュー内から[Japan]を選択し、[OK]をクリックします。



5.　以上で、パラメータの設定は完了です。

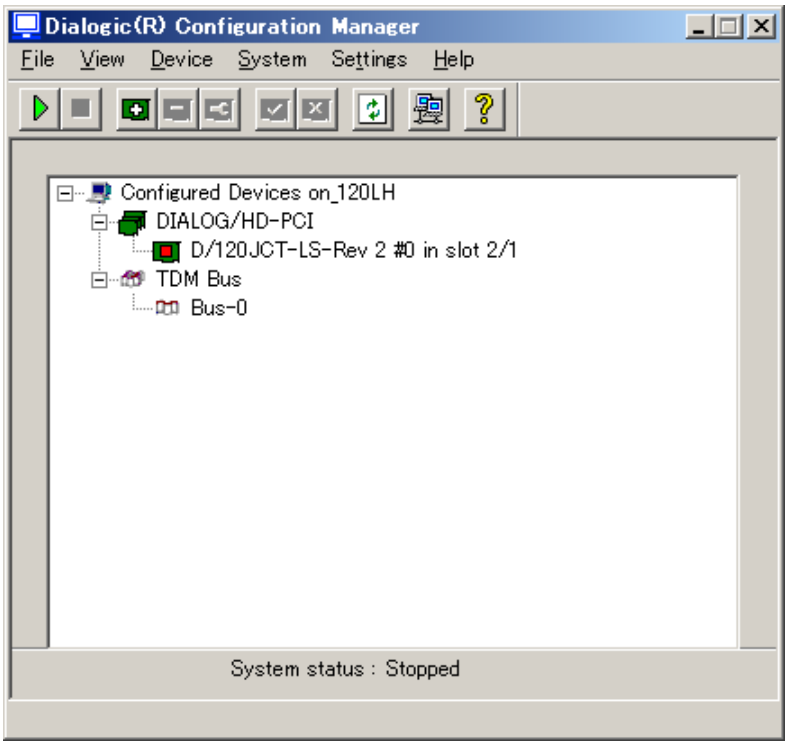
第3節 CSPファームウェアの設定

音声・FAX 処理ボードを使用し CSP による機能が必要な場合は、以下の手順で CSP ファームウェアの設定を実施してください。

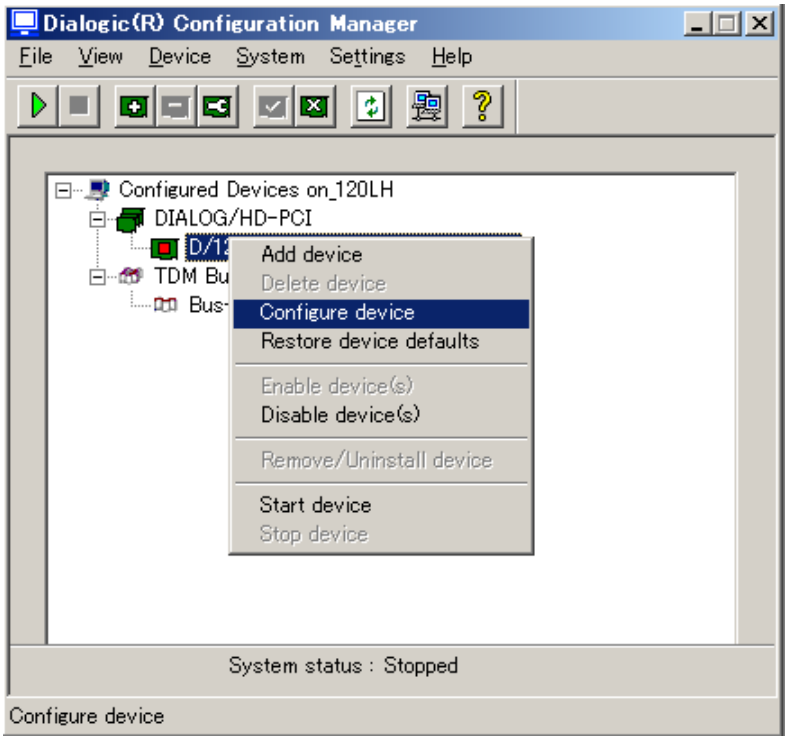
注意

設定は音声・FAX 処理ボード毎に有効になるため、音声・FAX 処理ボードが複数枚搭載されている場合は、すべての音声・FAX 処理ボードに設定してください。

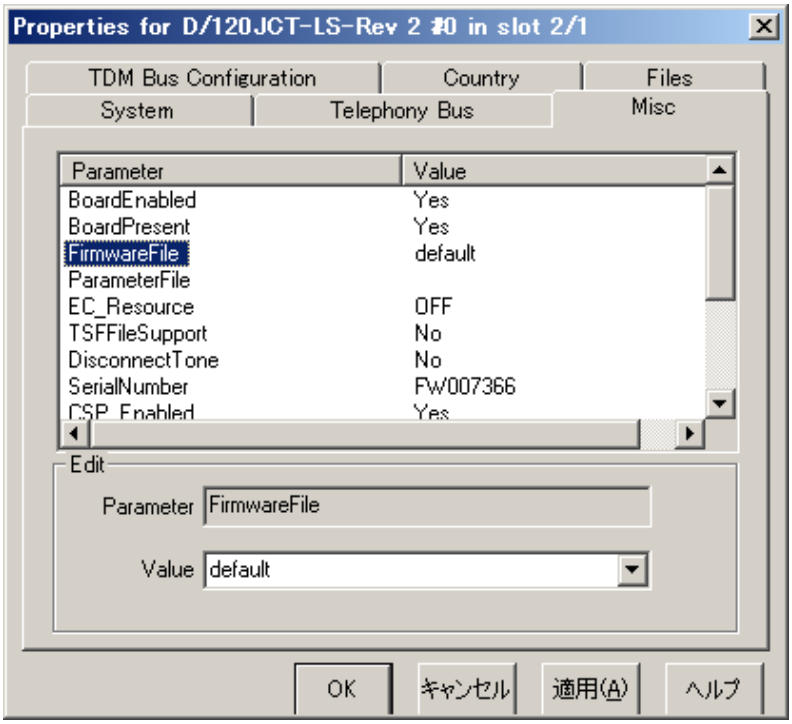
1. [スタート]－[すべてのプログラム]－[Intel Dialogic System Release]－[Configuration Manager - DCM]をクリックし、DCM を起動します。



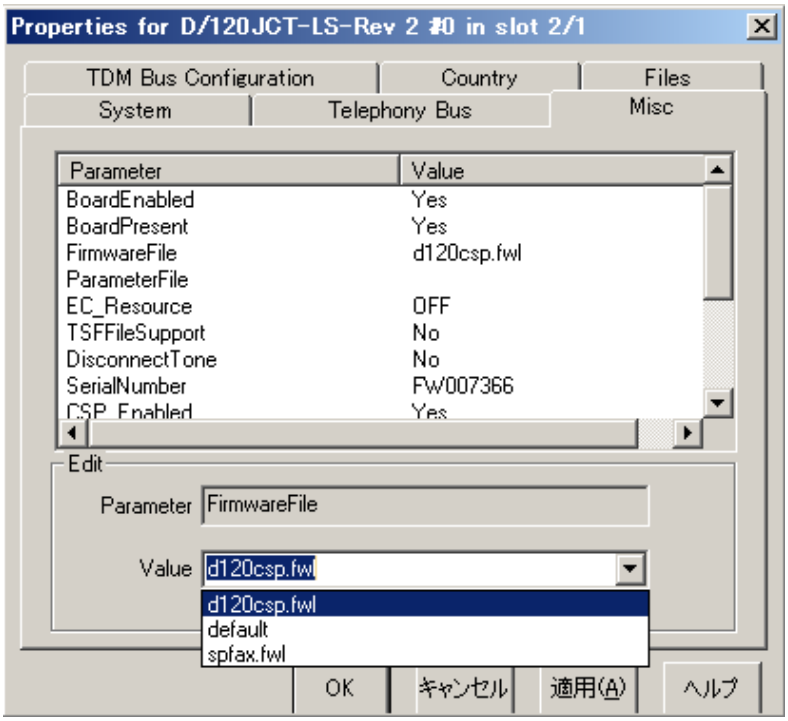
2.　画面上の搭載ボードを右クリックし、[Configure device]を選択します。



3.　[Misc]タブを開き、[Parameter]内の[FirmwareFile]を選択します。



4. [Value]のプルダウンメニュー内に、各ボードに対応した[xxxxcsp.fwl]が表示されますので選択し、[OK]をクリックします。



5. 以上で、CSP ファームウェアの設定は完了です。

第４章 DCMサービスの開始/停止/自動起動の設定

本章では、DCM サービスに関する、以下の項目について説明します。

第1節　DCM サービスの開始
第2節　DCM サービスの停止
第3節　DCM サービスの自動起動の設定
第4節　DCM サービスの自動起動の解除

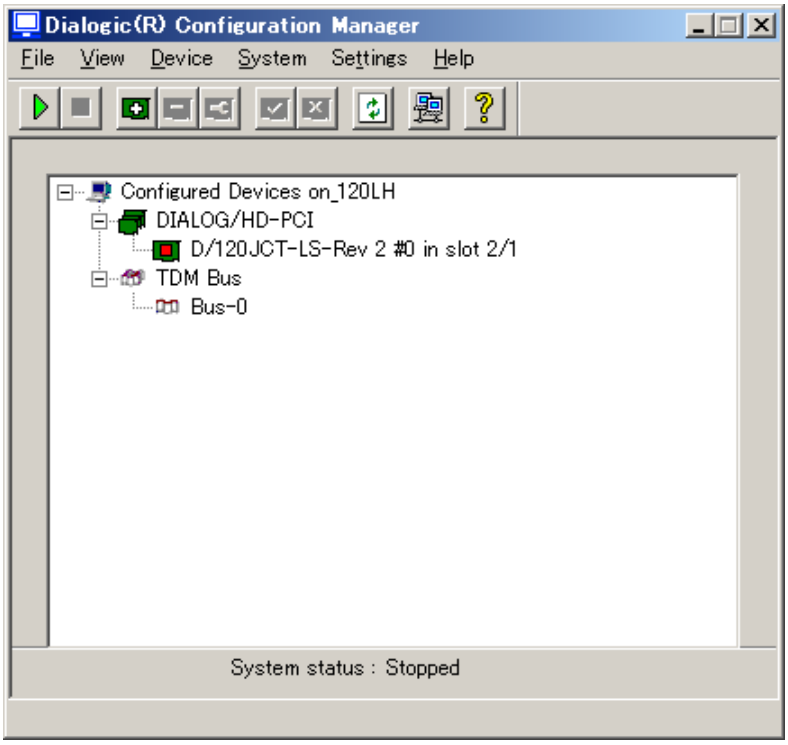
ヒント

詳しい説明が必要な場合は、[スタート]－[すべてのプログラム]－[Intel Dialogic System Release]－[Online Documentation]を参照してください。

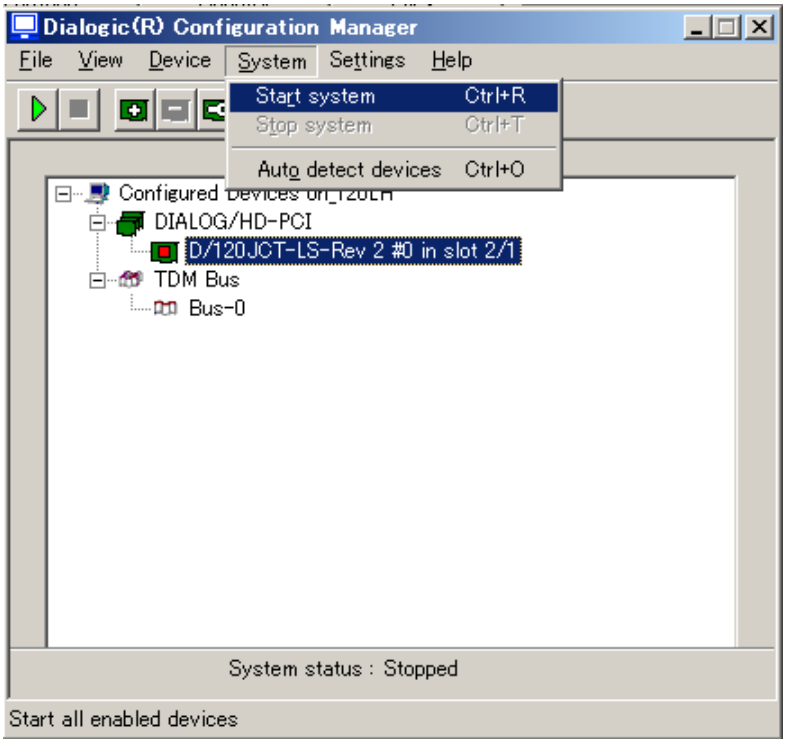
※ここでは音声・FAX 処理ボードの設定手順について、12 回線音声処理ボードを例に説明します。

第1節 DCMサービスの開始

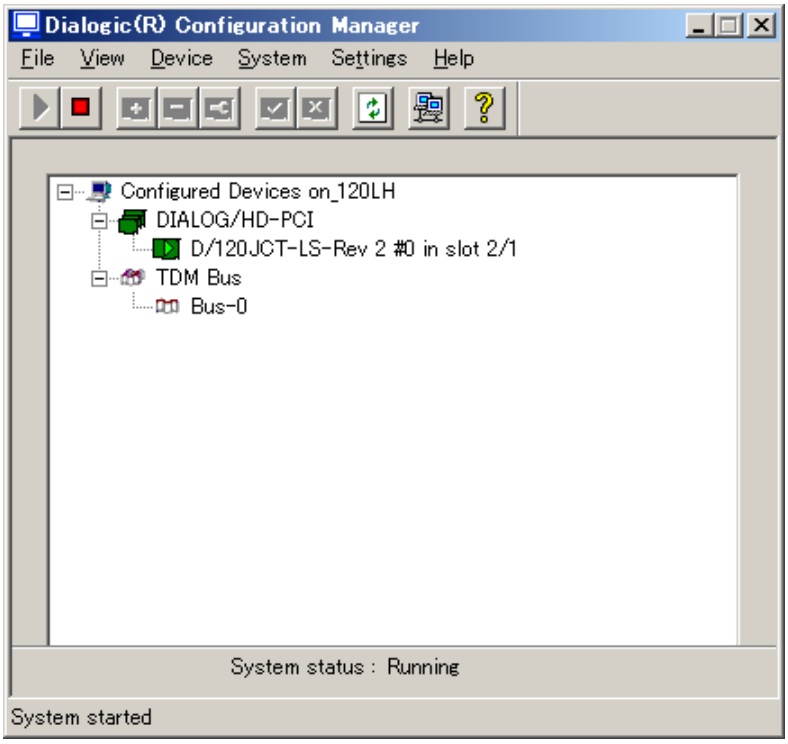
1. [スタート]－[すべてのプログラム]－[Intel Dialogic System Release]－[Configuration Manager - DCM]をクリックし、DCM を起動します。



2.　メニューバーの[System] - [Start system]をクリックし、サービスを開始します。

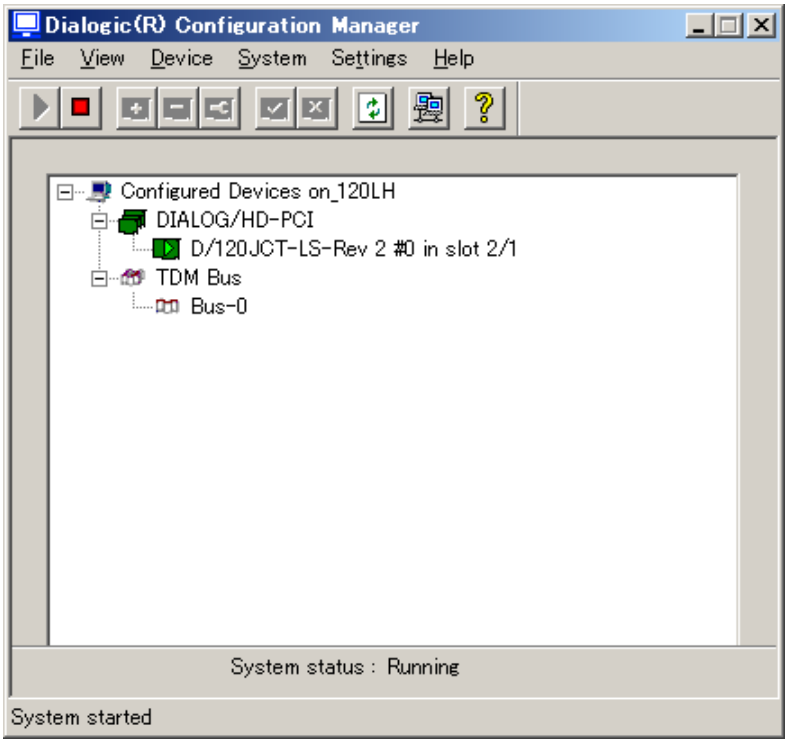


3.　搭載ボードのアイコンに緑色の三角が表示され、[System status]が[Running]と表示されると、サービスの開始は完了です。



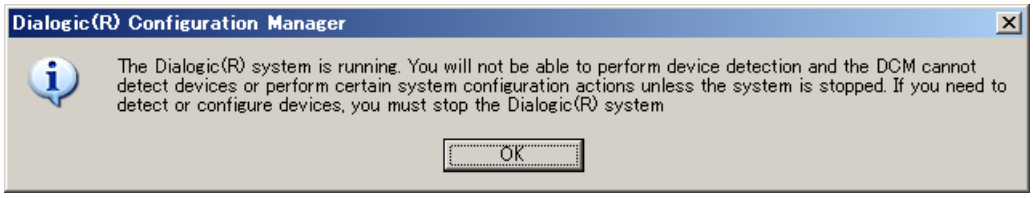
第2節 DCMサービスの停止

1. [スタート]－[すべてのプログラム]－[Intel Dialogic System Release]－[Configuration Manager - DCM]をクリックし、DCM を起動します。

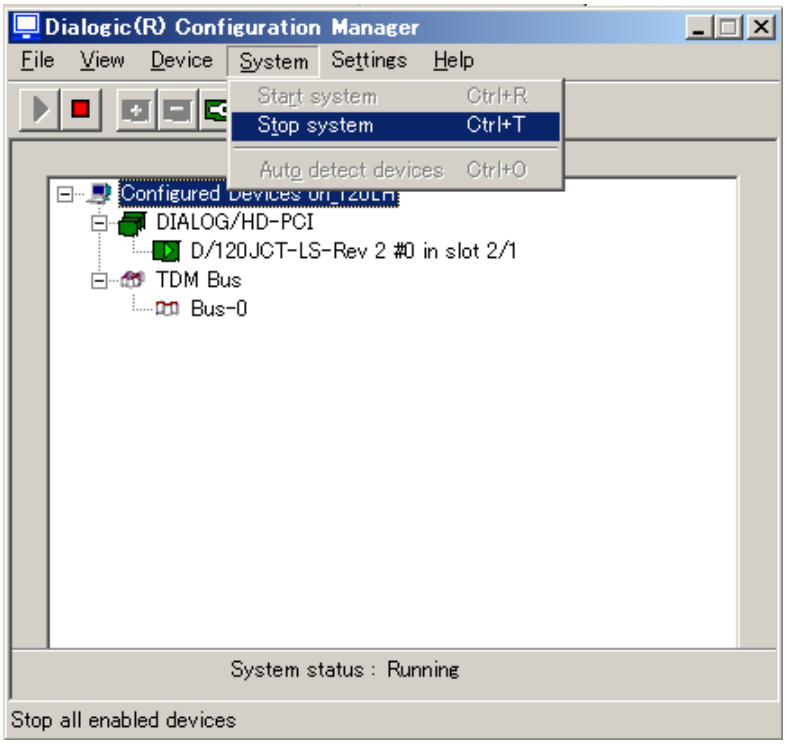


注意

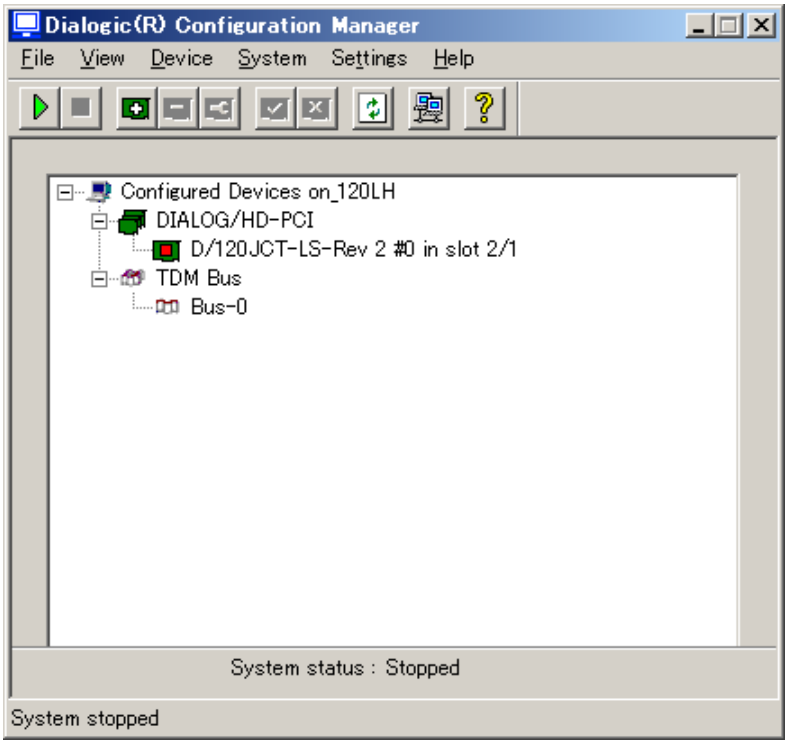
DCM サービスが既に起動中の場合、以下のウィンドウが表示されます。[OK]をクリックします。



2. メニューバーの[System] - [Stop system]をクリックし、サービスを停止します。



3. 搭載ボードのアイコンに赤色の四角が表示され、[System status]が[Stopped]と表示されると、サービスの停止は完了です。

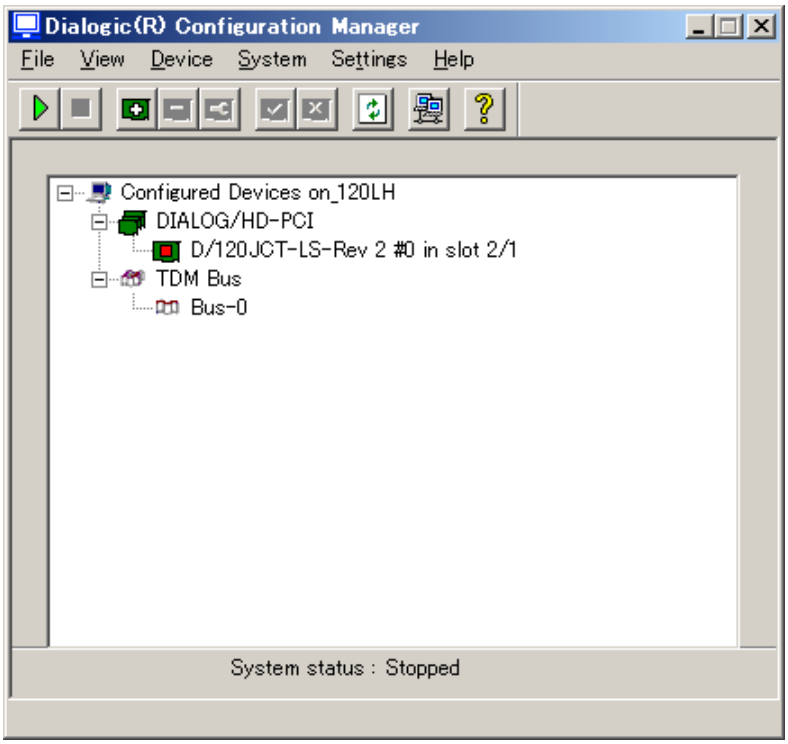


第3節 DCMサービスの自動起動の設定

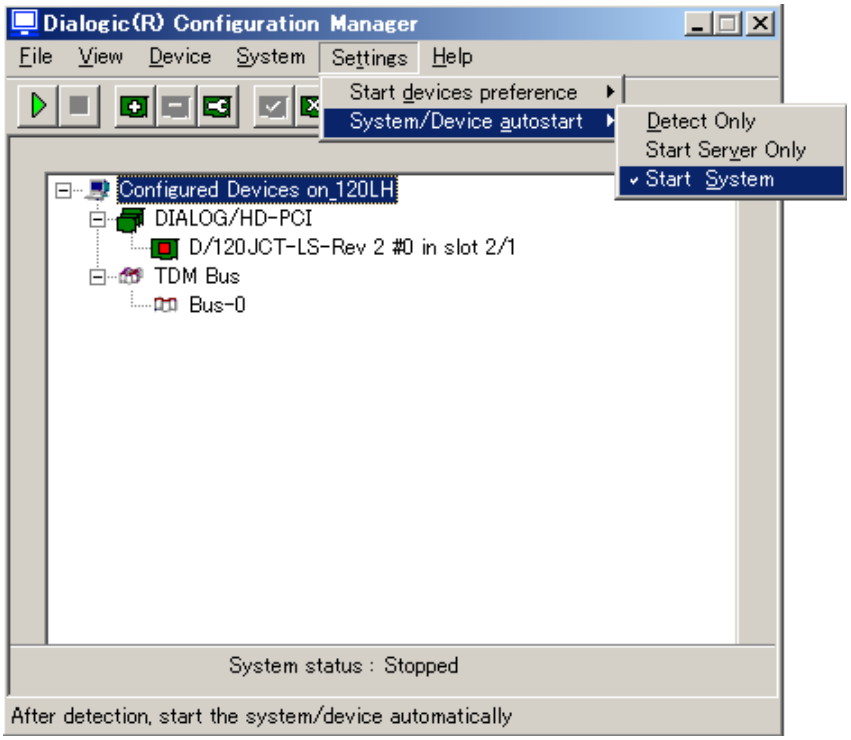
注意

・設定後はシステムの再起動が必要になります。
・OS の機能による DCM サービスの自動起動では、DCM が正常に動作しない場合があります。DCM サービスの自動起動は本章に従い、必ず DCM で設定してください。

1. [スタート]－[すべてのプログラム]－[Intel Dialogic System Release]－[Configuration Manager - DCM]をクリックし、DCM を起動します。



2. メニューバーの[Settings] - [System/Device autostart] - [Start System]をクリックし、自動起動に設定します。



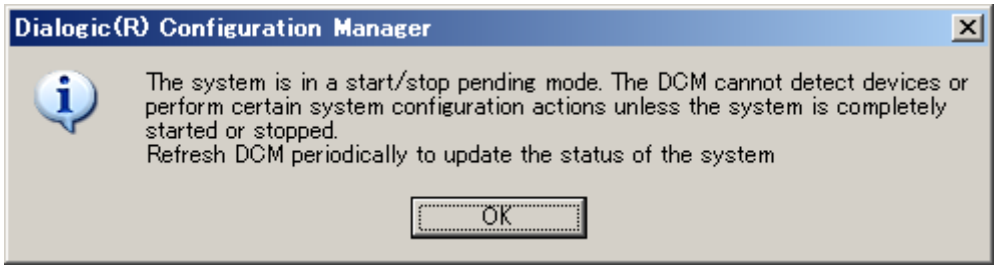
ヒント

[Start System]にチェックがついている場合、自動起動に設定されています。

3. システムを再起動し、DCM サービスの自動起動の設定は完了です。

ヒント

自動起動に設定している場合に DCM を起動すると、以下の画面が表示される場合があります。DCM サービスが完全に開始されていない状態です。[OK]をクリックし、[System status]が[Running]と表示されてから、設定などを変更してください。

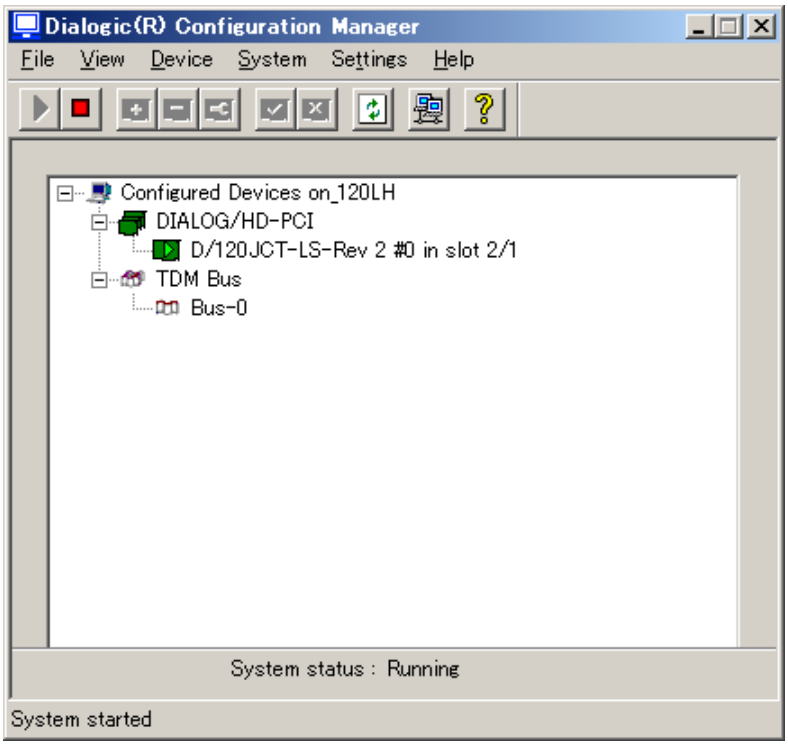


第4節 DCMサービスの自動起動の解除

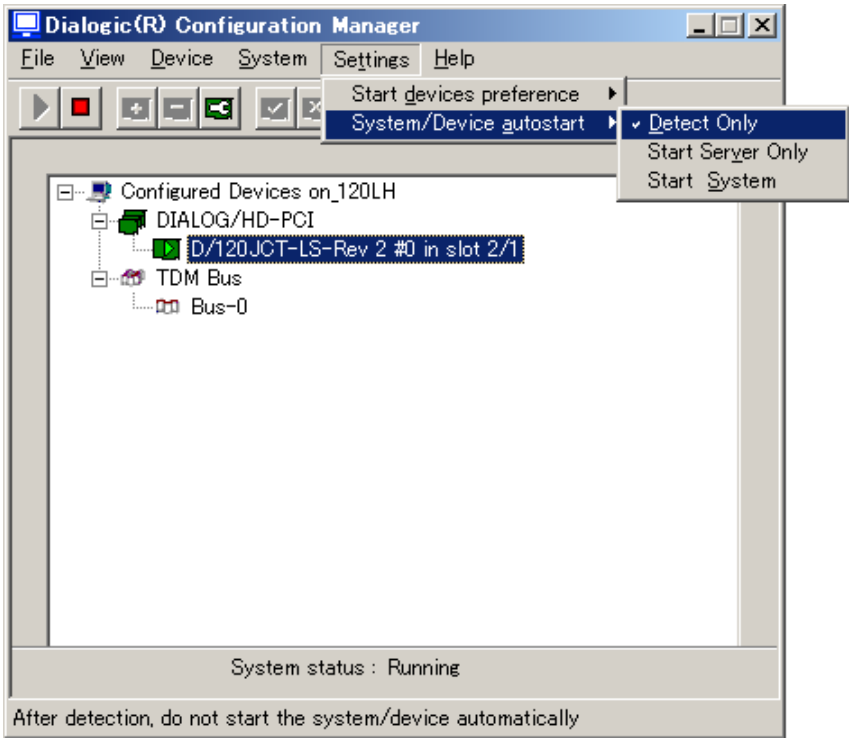
注意

・設定後はシステムの再起動が必要になります。

1. ［スタート］－［すべてのプログラム］－［Intel Dialogic System Release］－［Configuration Manager - DCM］をクリックし、DCM を起動します。



2. メニューバーの[Settings] - [System/Device autostart] - [Detect Only]をクリックし、自動起動の設定を解除します。



ヒント

[Start System]のチェックが外れている場合、自動起動の設定は解除されています。

3. システムを再起動し、DCM サービスの自動起動の設定は完了です。

第５章 音声・FAX処理ボードの追加/交換

本章では、音声・FAX 処理ボードの追加/交換を行う場合の手順について、追加を例に説明します。交換についても同様の手順で実施してください。

ヒント

詳しい説明が必要な場合は、[スタート]－[すべてのプログラム]－[Intel Dialogic System Release]－[Online Documentation]を参照してください。

※ここでは音声・FAX 処理ボードの追加手順について、4 回線音声・FAX 処理ボードを例に説明します。

注意

・ボードの追加/交換を行った場合は、必ず初期化、およびパラメータの設定を実行してください。正しく設定されていない場合、誤動作の原因になります。
・初期化を実施すると、実装済みのボードの設定も初期化されますので、再度設定してください。

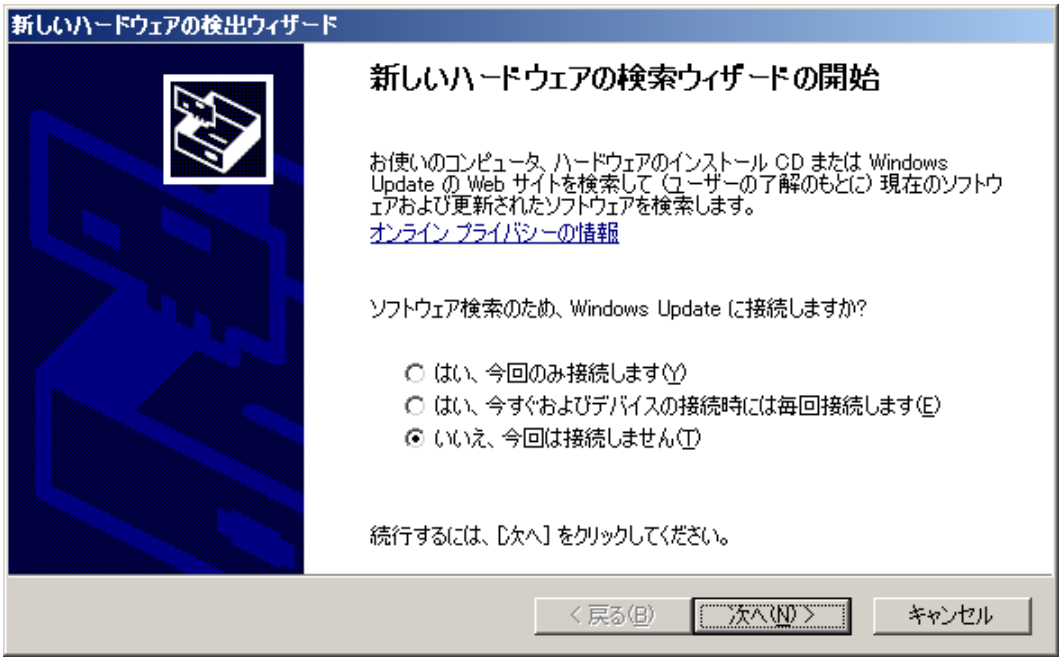
前提条件

・DCM サービスが停止していること。
・DCM サービスの自動起動が設定されていないこと。

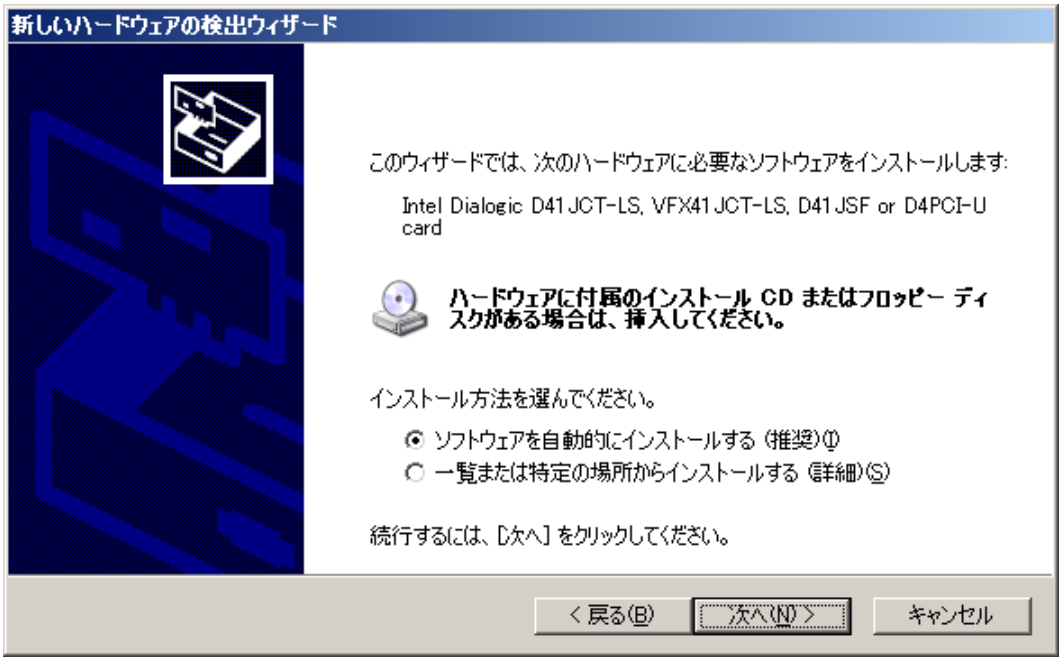
※「第４章 DCMサービスの開始/停止/自動起動の設定」を参照し、上記の条件を満たしてください。

1. システムを停止し、ボードの追加を行ってください。ボードの取り付け方法については、ボードの取り扱い説明書の記載事項に従ってください。

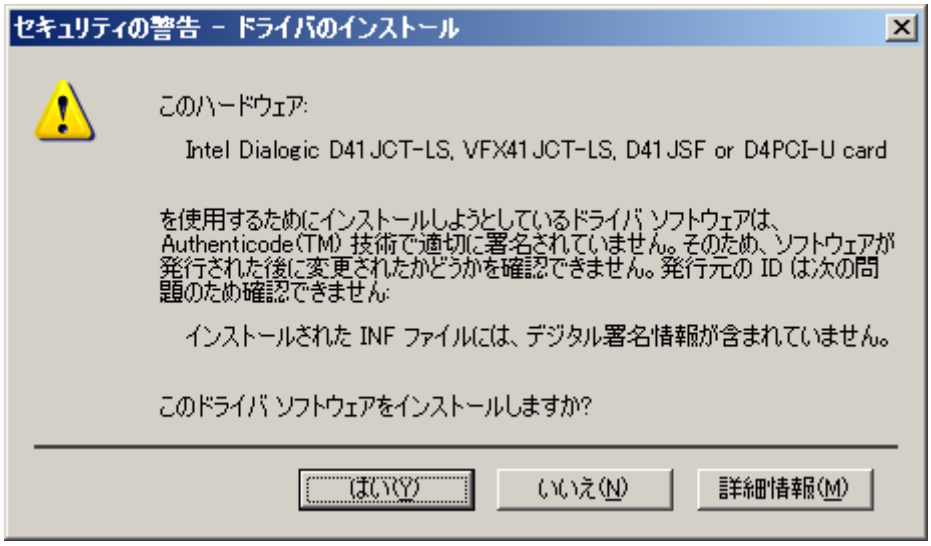
2. システムを起動すると、[新しいハードウェアの検出ウィザード]が表示されますので、[いいえ、今回は接続しません]を選択し、[次へ]をクリックします。



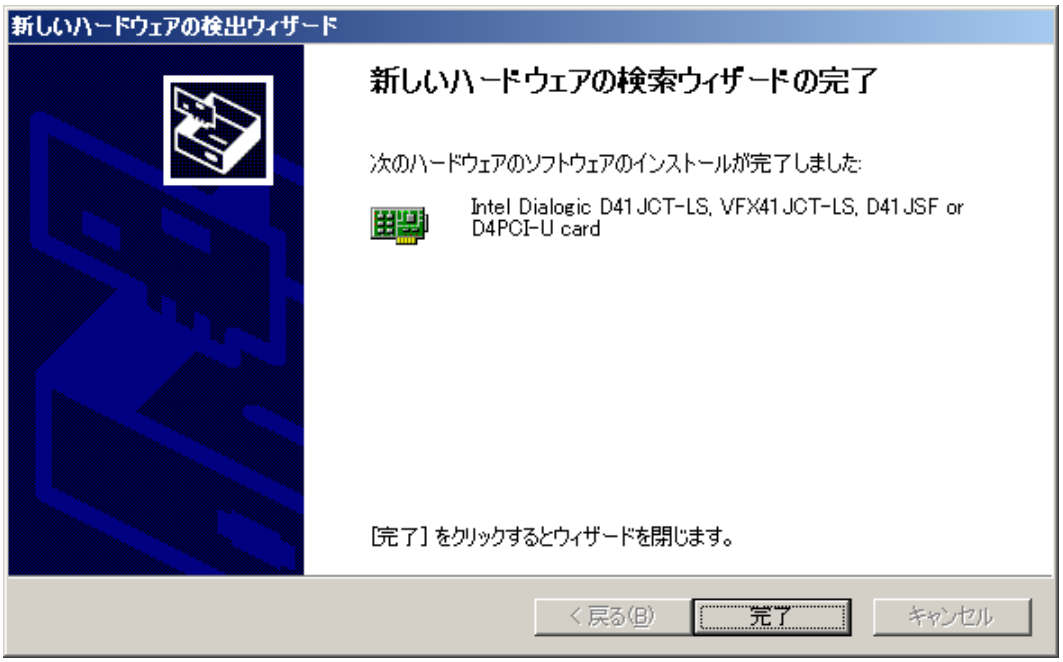
3. ハードウェアが検出されますので、[ソフトウェアを自動的にインストールする]を選択し、[次へ]をクリックします。



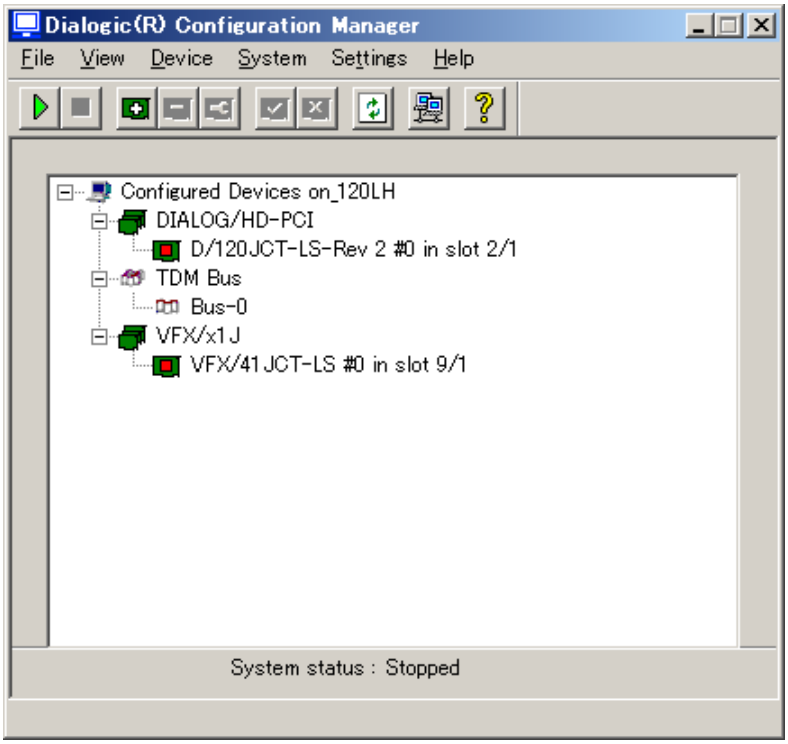
4. デジタル署名の警告が表示されますが、運用上問題はありません。[はい]をクリックします。



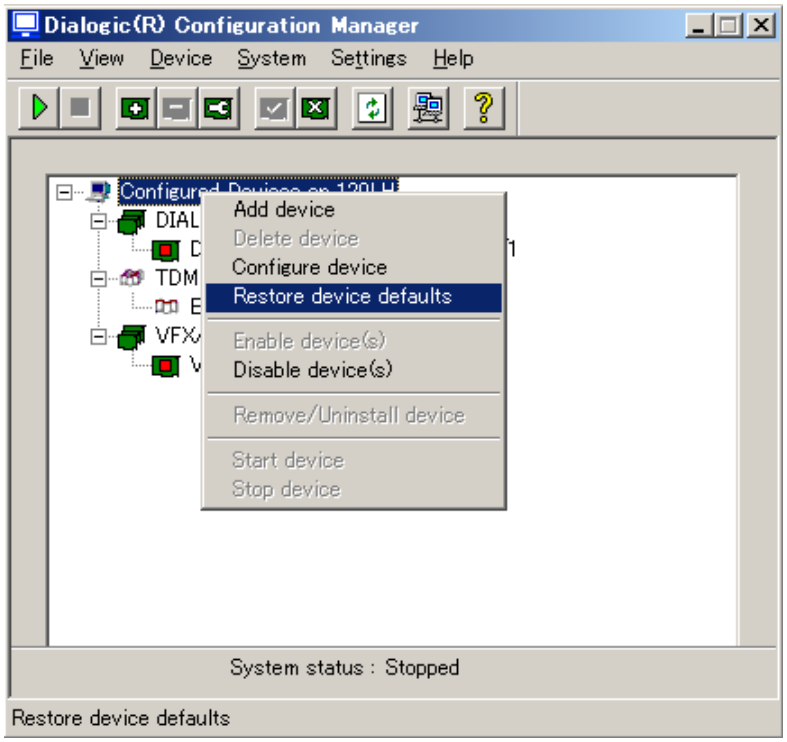
5. 追加したボードのソフトウェアのインストール完了後、以下の画面が表示されますので、[完了]をクリックします。



6. 続いて、ボードの設定を行います。[スタート]－[すべてのプログラム]－[Intel Dialogic System Release]－[Configuration Manager - DCM]をクリックし、DCM を起動します。新規のボードが追加されていることを確認してください。



7. 最上段のコンピュータを右クリックし、[Restore device defaults]を実行します。



8.　初期化の警告画面が表示されます。[はい]をクリックします。

9.　続けてすべてのボードに対し、パラメータの設定を行ってください。また、必要があればCSPファームウェアの設定を行います。設定手順は「第３章 音声・FAX処理ボードの設定」の第２節、および第３節を参照してください。

第６章 音声・FAX処理ボードサポートソフトウェアのアンインストール

本章では、音声・FAX 処理ボードサポートソフトウェアをアンインストールする手順について説明します。

ヒント

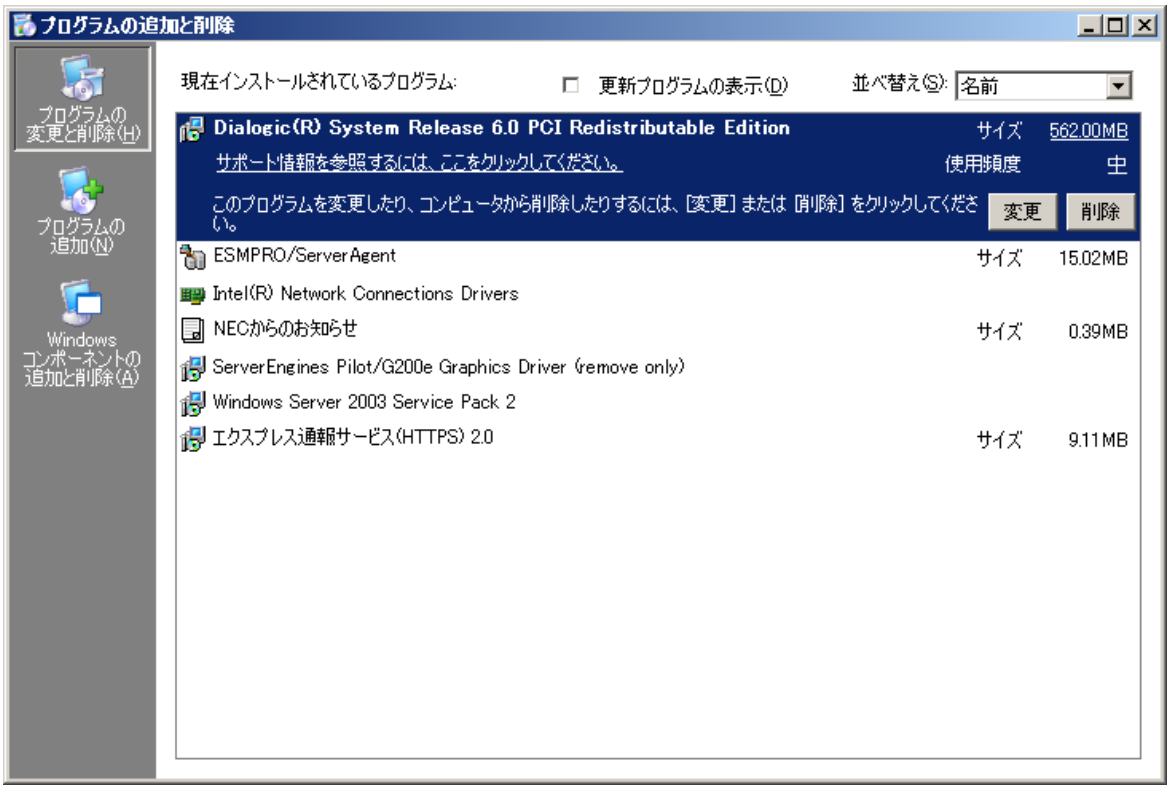
詳しい説明が必要な場合は、[スタート]－[すべてのプログラム]－[Intel Dialogic System Release]－[Online Documentation]を参照してください。

前提条件

・DCM サービスが停止していること。
・DCM サービスの自動起動が設定されていないこと。
・DCM サービスのウィンドウが閉じていること。

※「第４章 DCMサービスの開始/停止/自動起動の設定」を参照し、上記の条件を満たしてください。

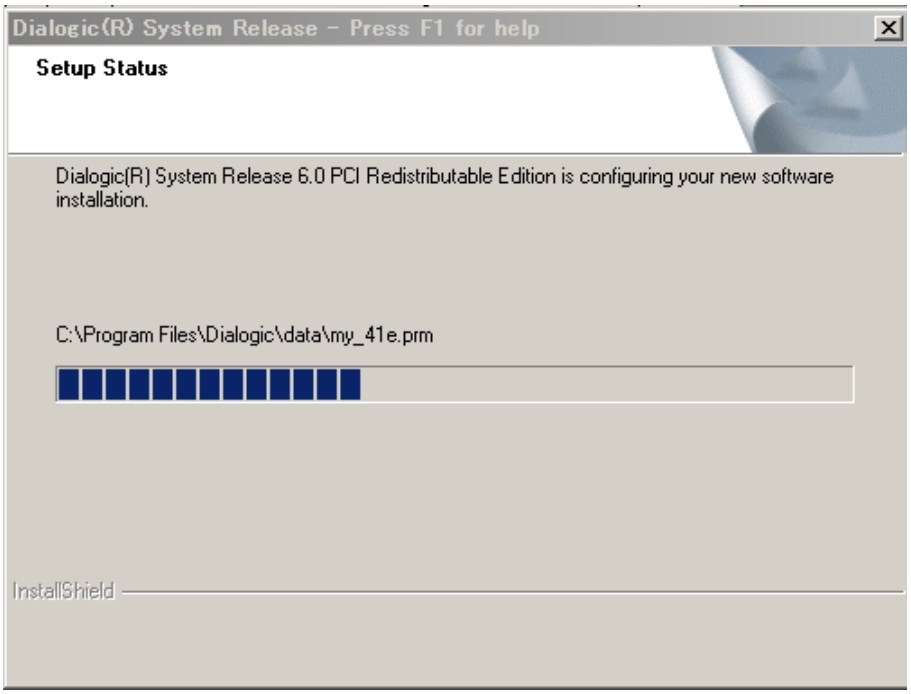
1. [スタート]－[コントロールパネル]－[プログラムの追加と削除]を起動し、[Intel Dialogic System Release 6.0 Redistributable Edition]の[削除]をクリックします。



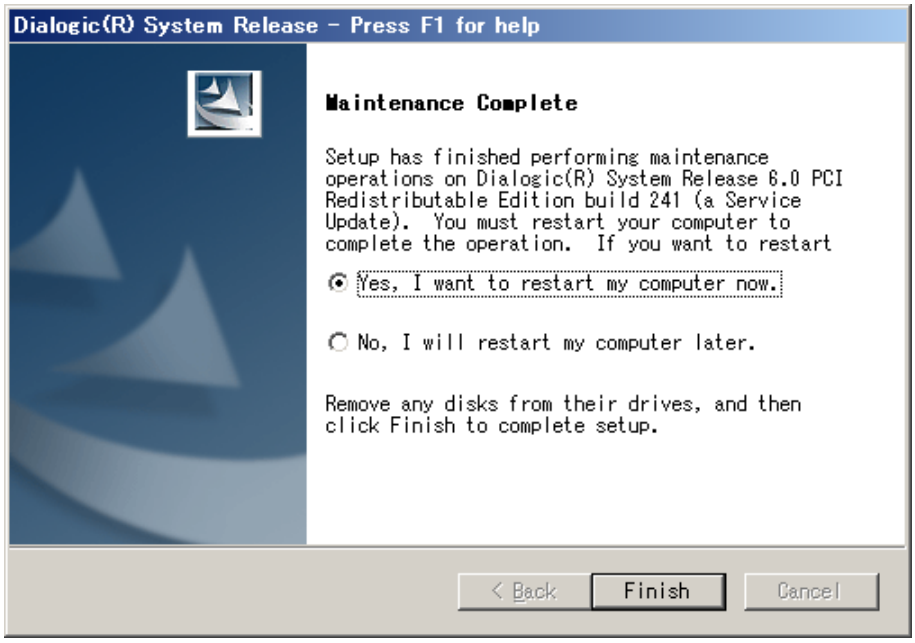
2. コンフィグレーションデータのバックアップの確認画面が表示されます。バックアップが必要な場合は、「はい」をクリックします。不要な場合は、[いいえ]をクリックします。

3. アンインストールの確認画面が表示されますので、[OK]をクリックします。

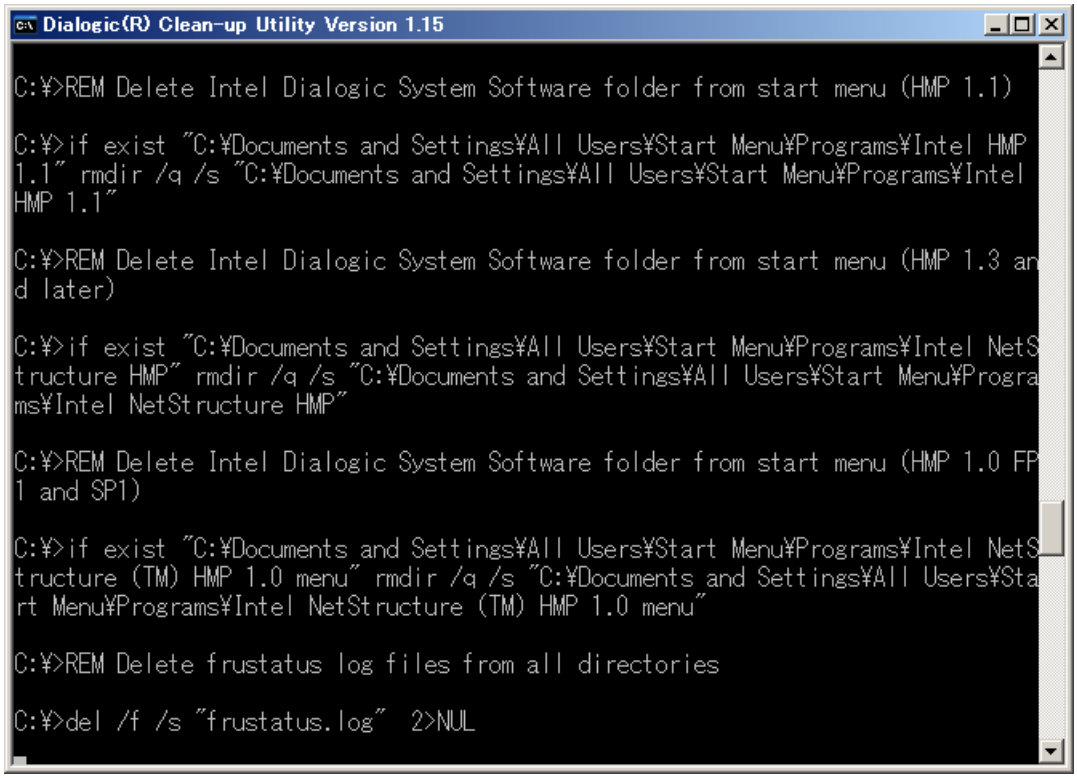
4. アンインストールが開始されます。



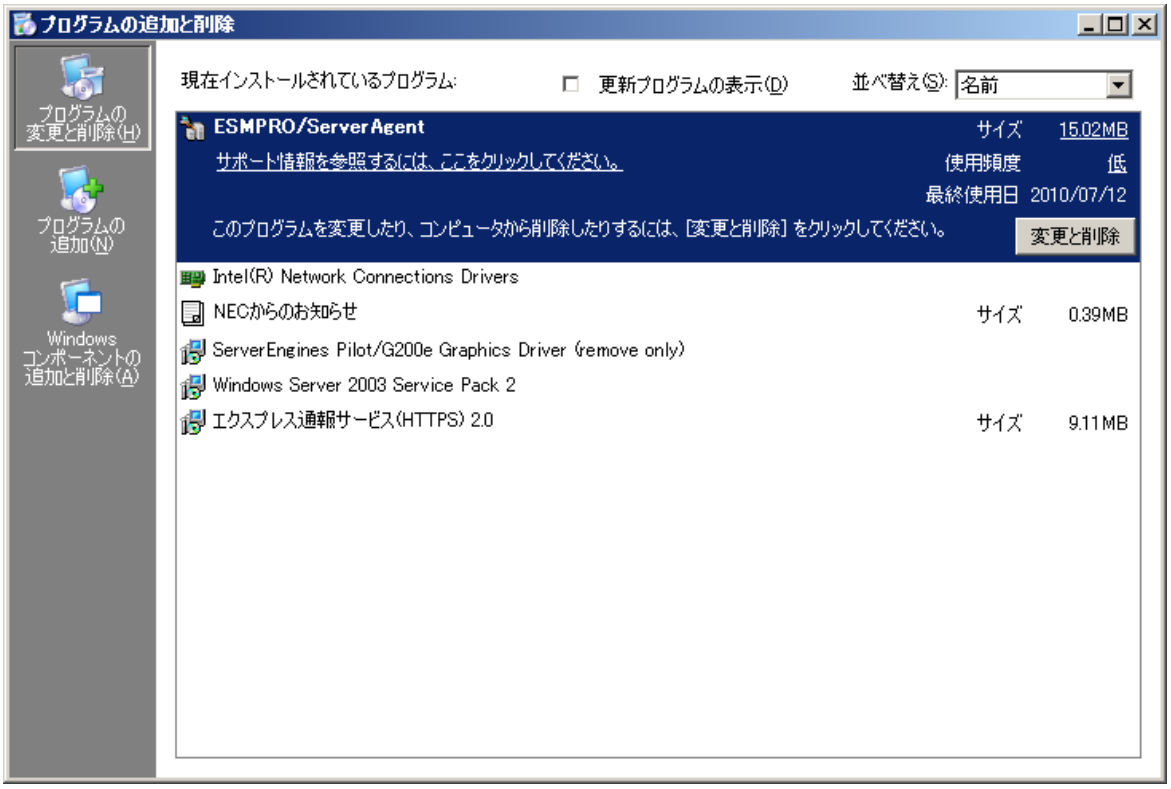
5. [Finish]をクリックし、システムを再起動します。



6. 再起動後、ログオン時に残ファイルのクリーンアップが行われます。



7. [スタート]－[コントロールパネル]－[プログラムの追加と削除]を起動し、[Intel Dialogic System Release 6.0 Redistributable Edition]が削除されていることを確認します。



8. [Intel Dialogic System Release 6.0 Redistributable Edition]が削除されていれば、アンインストールの完了です。

第７章 ログ情報ファイルについて

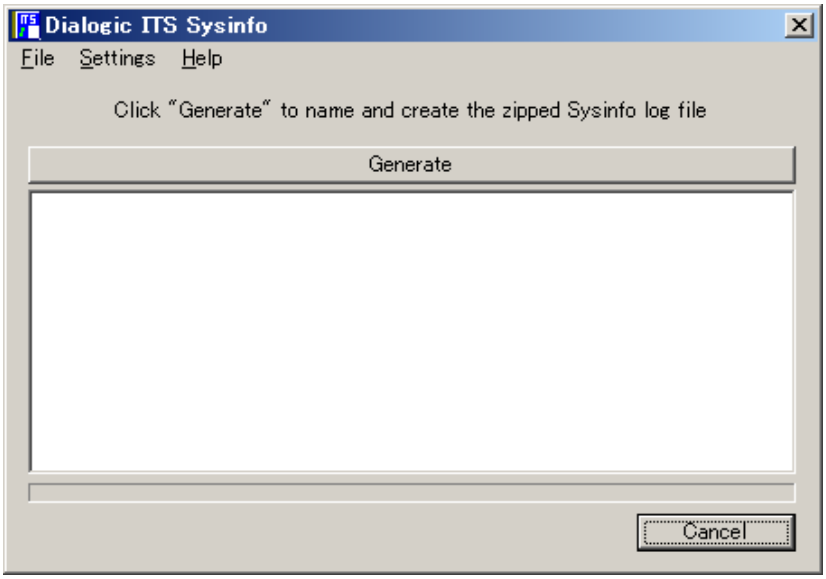
本章では、音声・FAX 処理ボードサポートソフトウェアのログ情報ファイルを採取する手順について説明します。

1. 〈インストールフォルダ配下〉¥bin¥its_sysinfo.exe をクリックし、起動します。

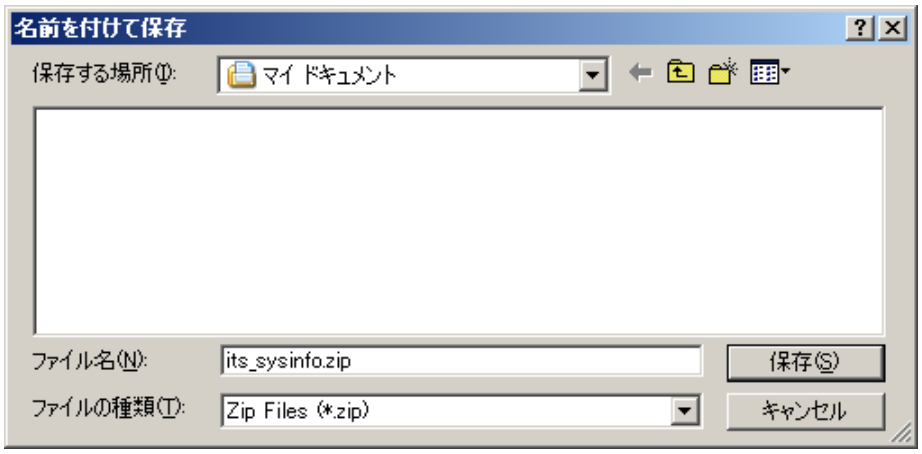
注意

ログ情報採取ツール(its_sysinfo.exe)は、「第２章 音声・FAX処理ボードサポートソフトウェアのインストール」でインストールしたフォルダ配下のbinフォルダに保存されています。
例) C:¥Program files¥Dialogic¥bin¥its_sysinfo.exe

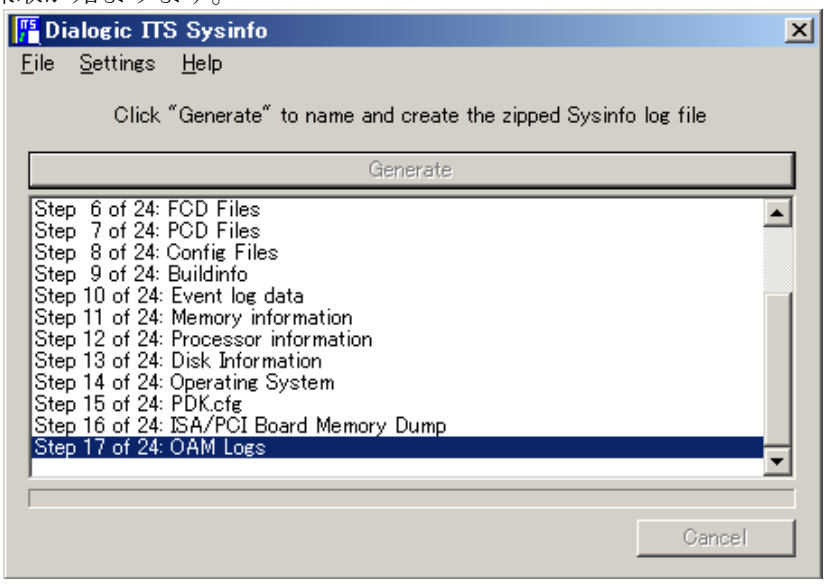
2. [Generate]をクリックします。



3. ログ情報ファイルのファイル名、および、保存する場所を選択します。ファイル名、および、保存する場所に問題がなければ、[保存]をクリックします。

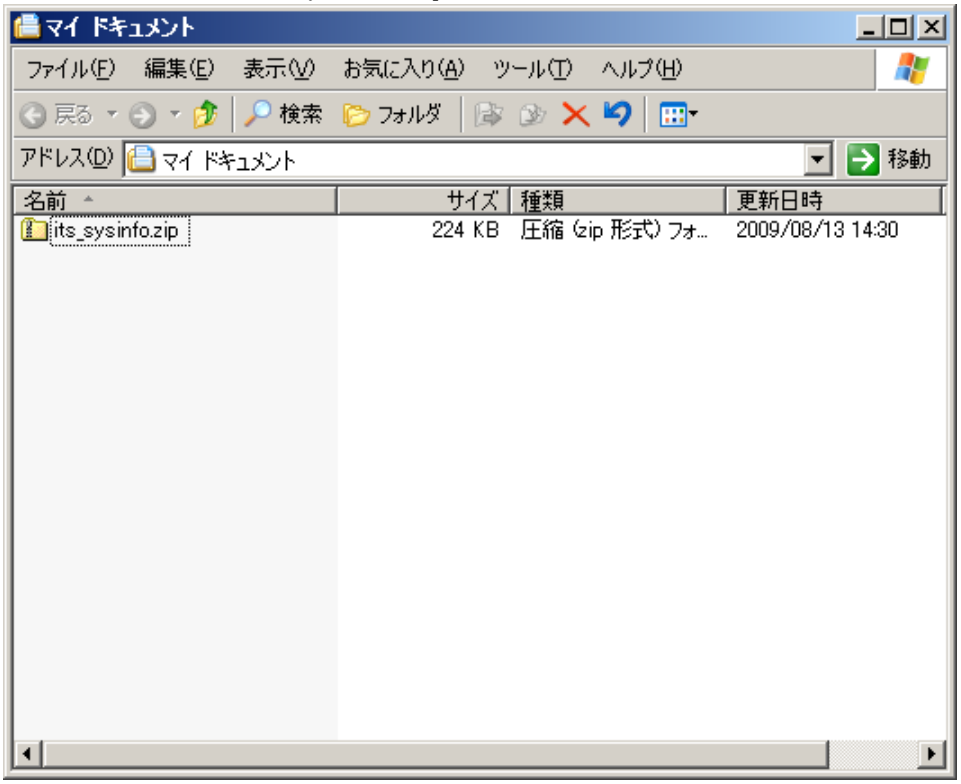


4.　ログ情報の採取が始まります。



5.　以下の画面が表示されますので、[OK]をクリックしてください。

6.　保存を指定した場所に、[its_sysinfo.zip](指定したファイル名)があることを確認します。



7.　以上で、ログ情報ファイルの採取は完了です。

第８章 PBX Expertについて

音声・FAX 処理ボードサポートソフトウェアは、NTT 回線に準拠しており、PBX やエミュレータ等の信号は検知できないことがあります。その場合は、PBX Expert を使用し、信号を採取後、DCM に設定する必要があります。

注意

一枚の、音声または音声・FAX 処理ボードで異なる回線に接続することはできません。

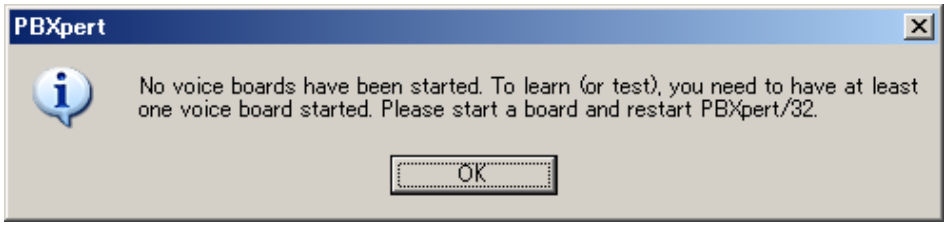
本章では、PBX Expert を使用し、DCM へ設定する手順について説明します。

1. 「第４章 DCMサービスの開始/停止/自動起動の設定」を参照し、DCMサービスを開始します。

2. [スタート]－[すべてのプログラム]－[Intel Dialogic System Release]－[PBX Expert]をクリックし、起動します。

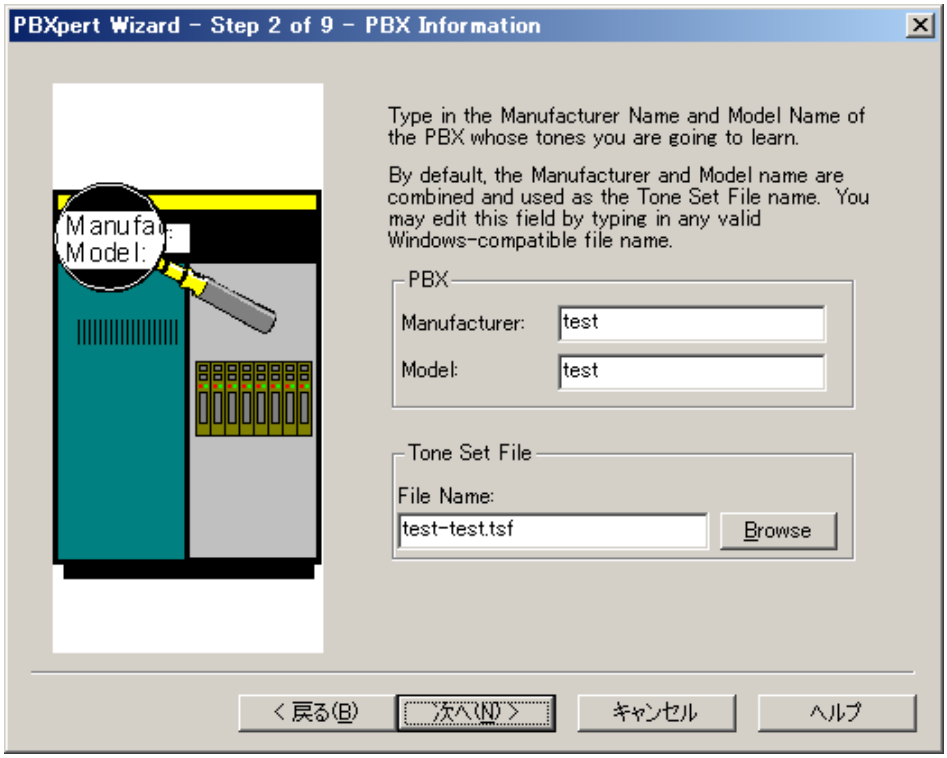
注意

DCM サービスが開始されていない場合は以下の警告が表示されますので、必ずサービスを開始後、PBX Expert を再起動してください。



3.　Setup 開始画面で[次へ]をクリックします。

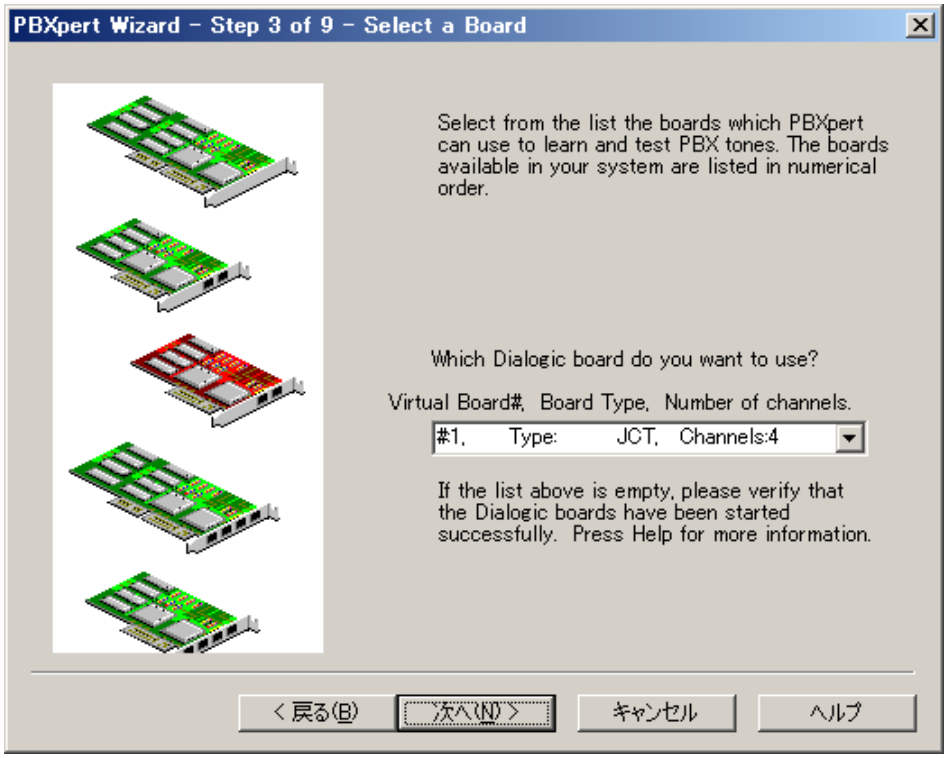
4. 任意の名前を[PBX]欄に入力し、[次へ]をクリックします。[Tone Set File]名が自動で入力されますが、指定したい場合は[Browse]をクリックし、保存場所、およびファイル名を入力します。



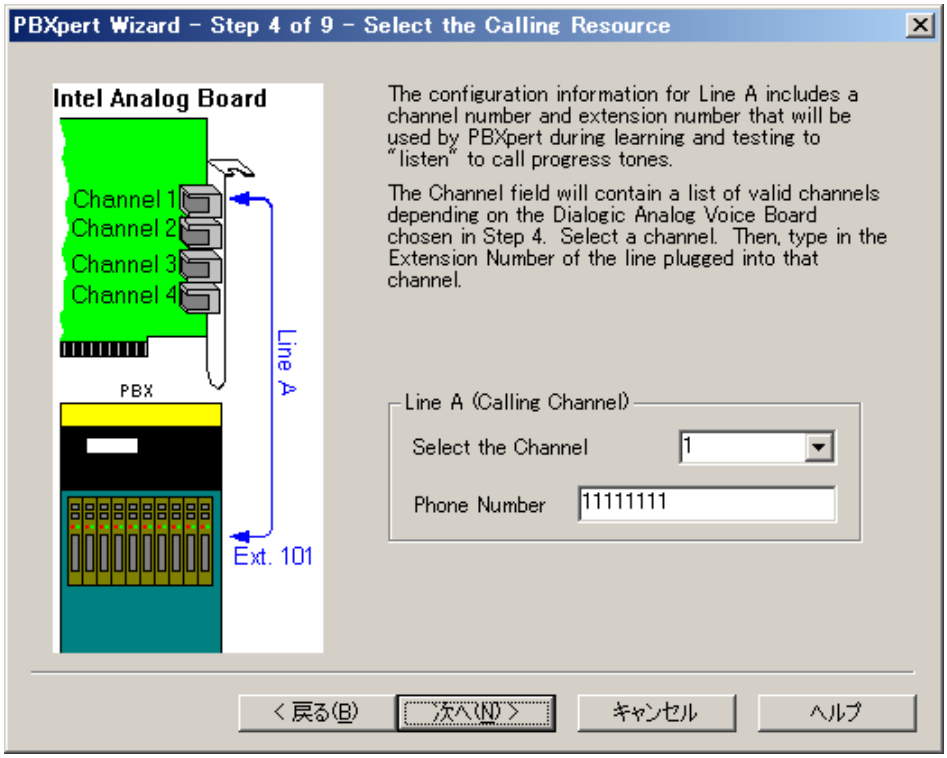
注意

デフォルトでは、「第２章 音声・FAX処理ボードサポートソフトウェアのインストール」でインストールしたフォルダ配下のdataフォルダに保存されます。
例) C:¥Program files¥Dialogic¥data¥

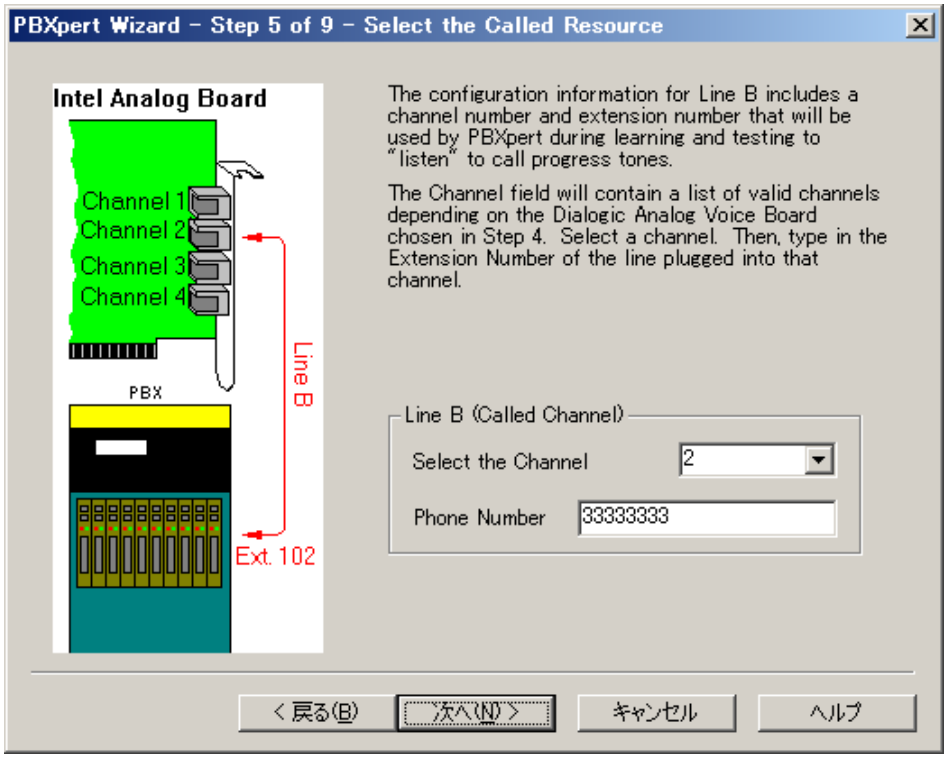
5.　設定するボードを選択します。問題がなければ、[次へ]をクリックします。



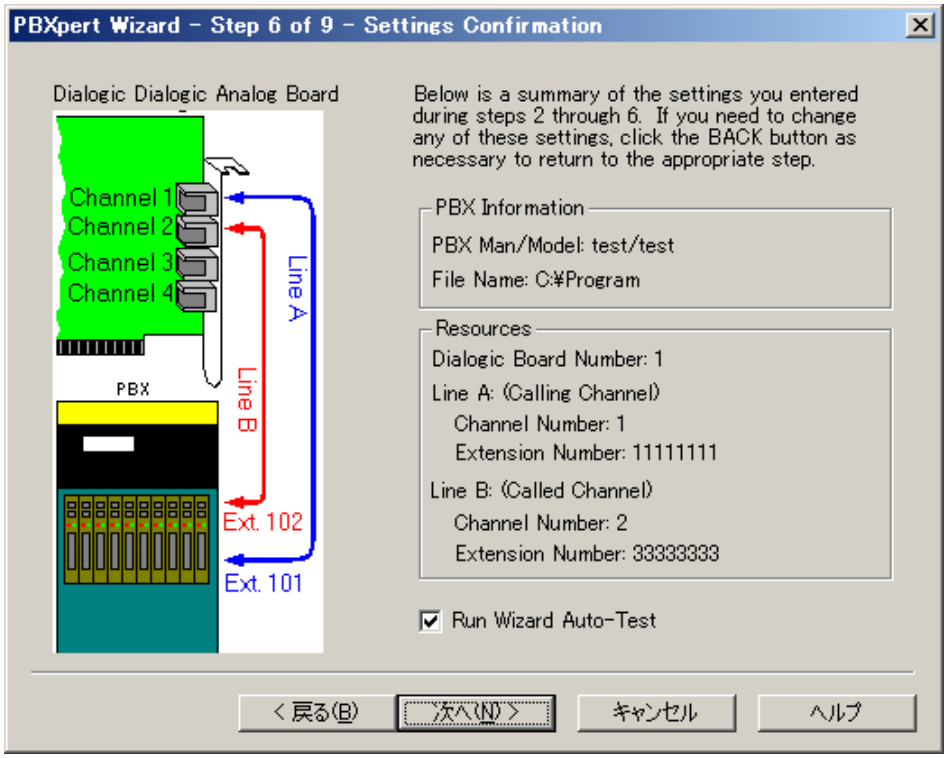
6.　一つ目の回線のチャンネル番号、およびダイアル番号を入力し、[次へ]をクリックします。



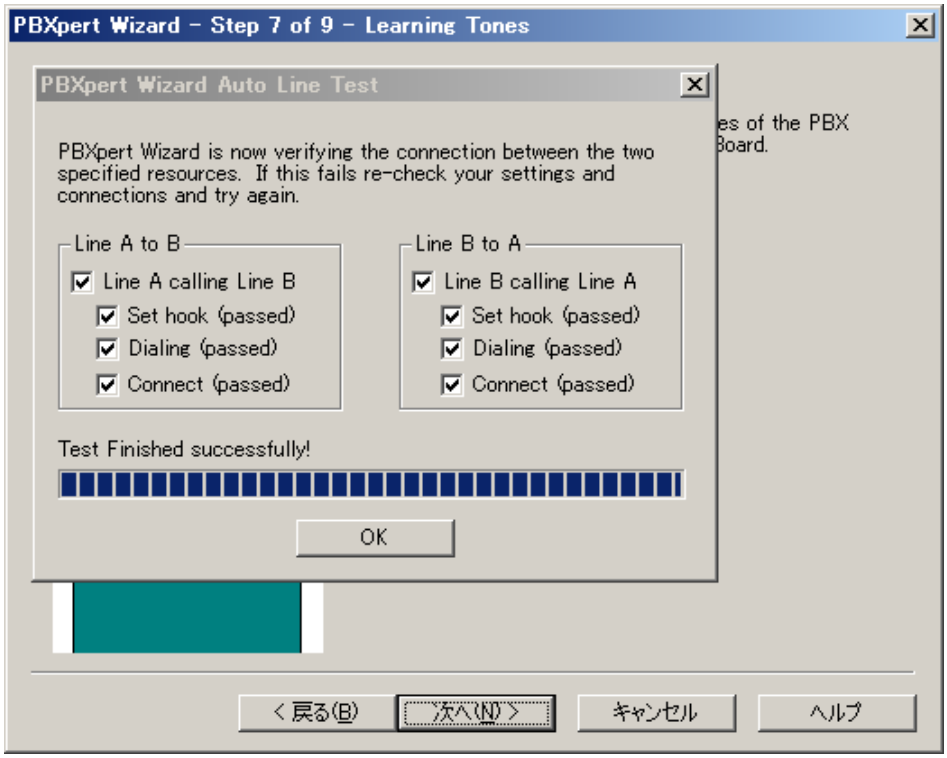
7.　二つ目の回線のチャンネル番号、およびダイアル番号を入力し、[次へ]をクリックします。



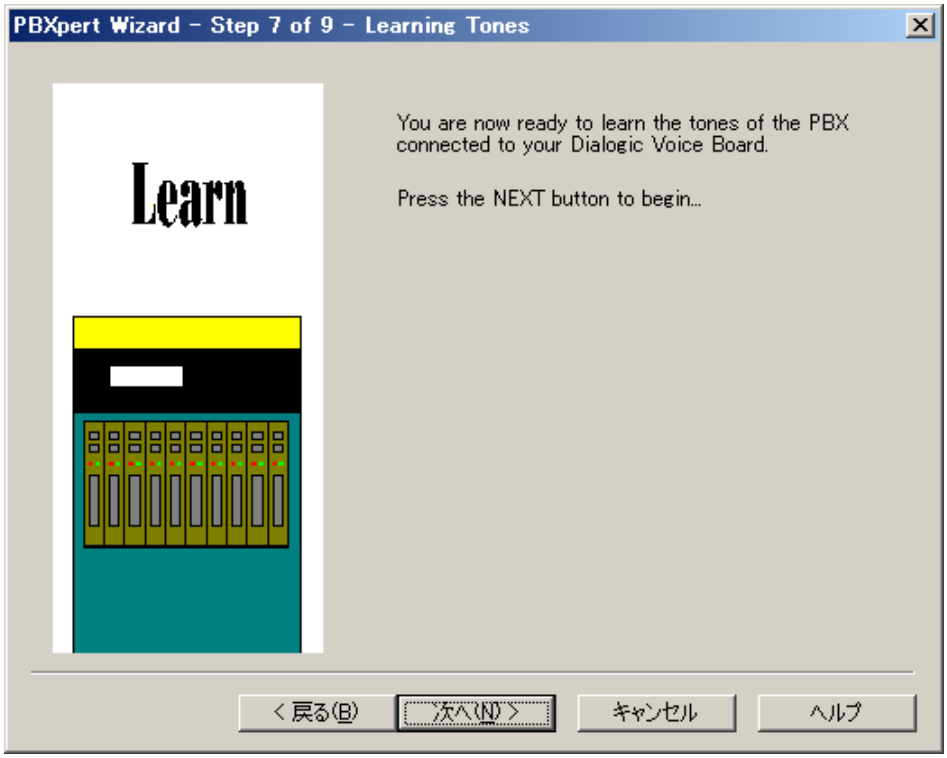
8.　ここまでの設定を確認し、[次へ]をクリックします。



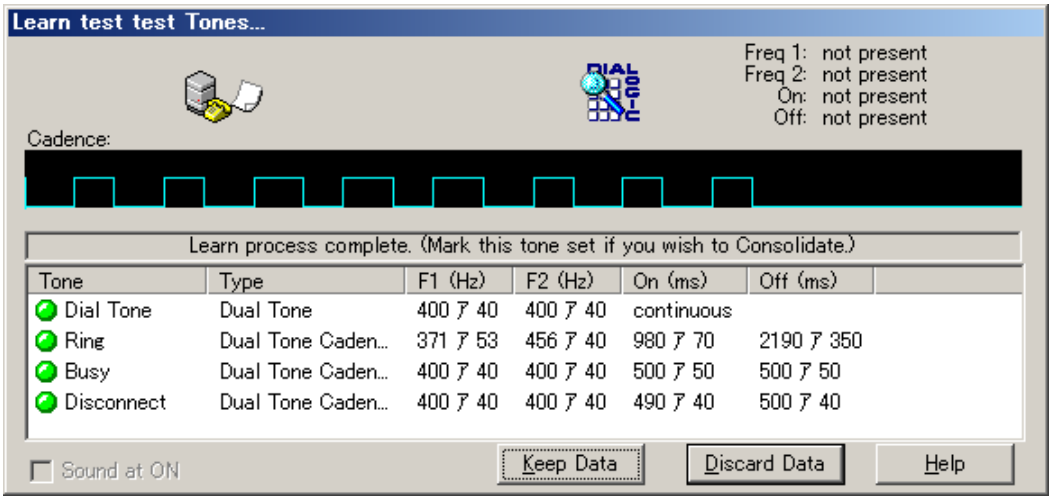
9.　検出前に回線のテストを行います。完了後、[OK]をクリックします。



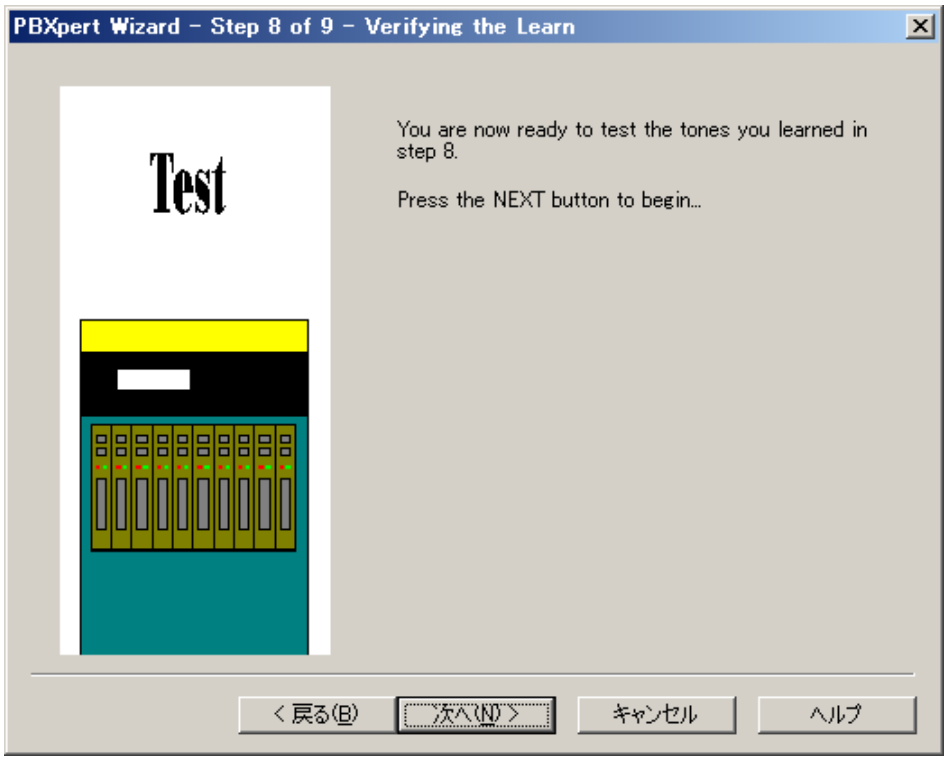
10.　トーンの検出を行います。[次へ]をクリックします。



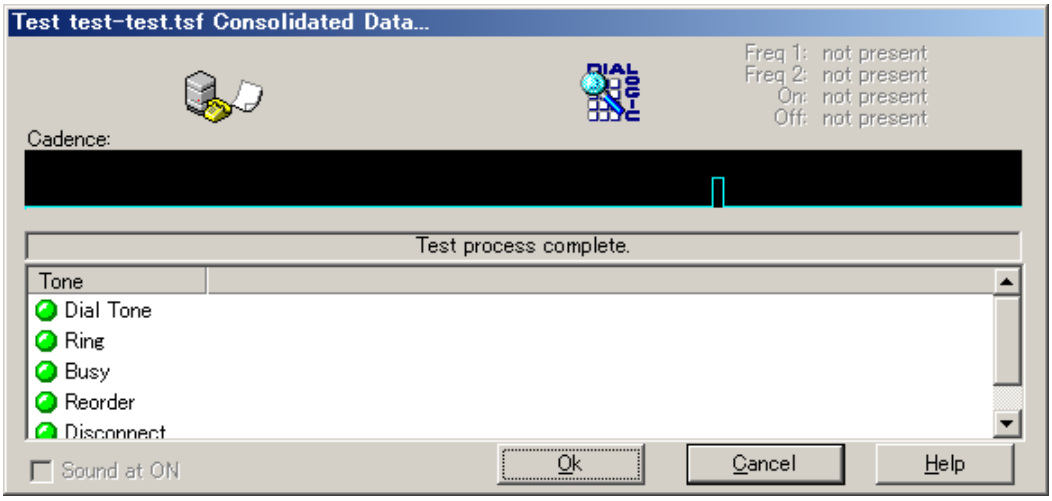
11. システムによっては数分かかることがあります。完了後、[Keep Data]をクリックします。



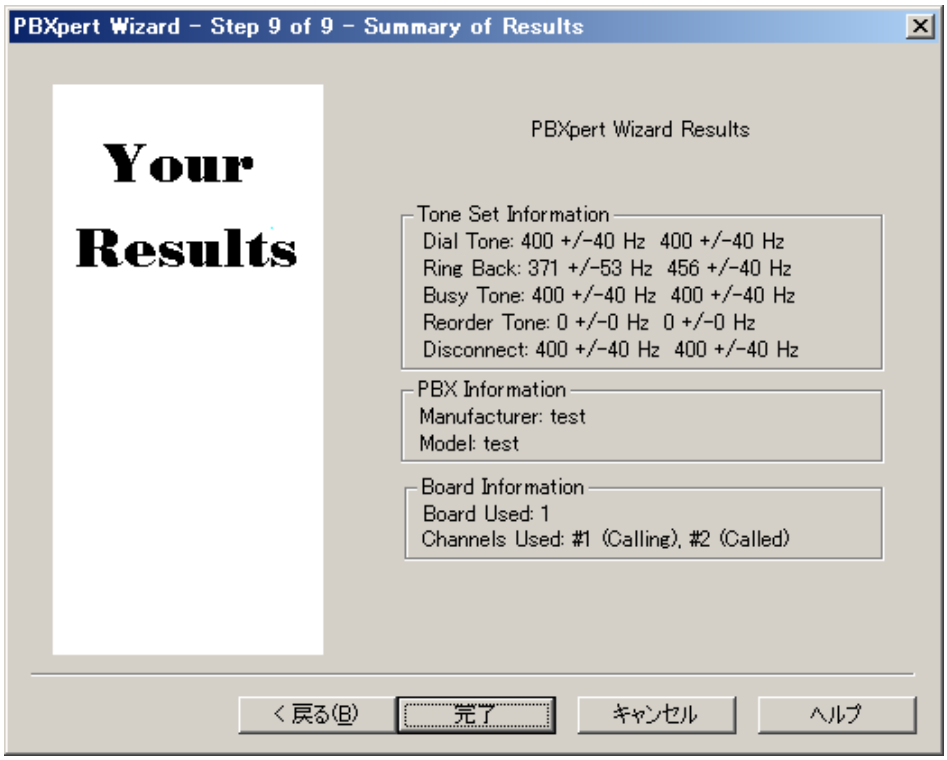
12. トーンのテストを行います。[次へ]をクリックします。



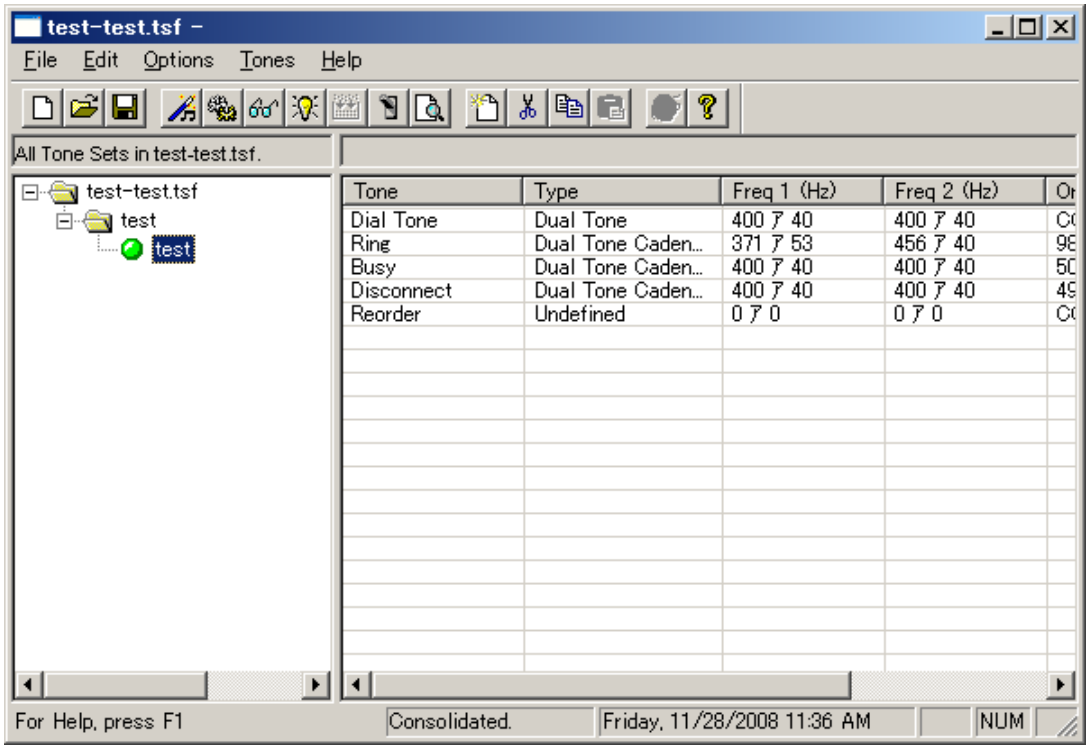
13. 完了後、[OK]をクリックします。



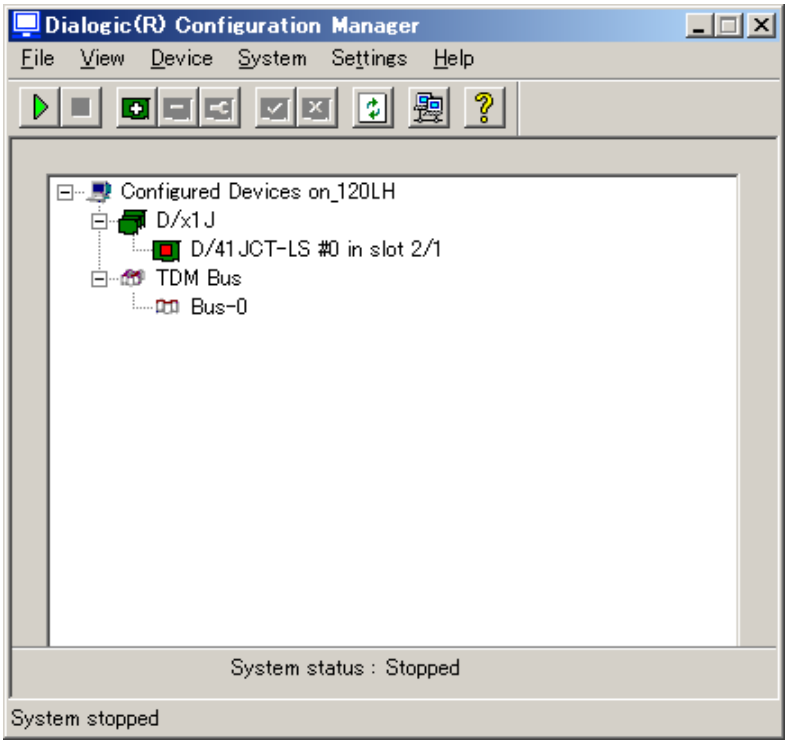
14. PBX Expert の実行結果が表示されます。内容を確認し、[完了]をクリックします。



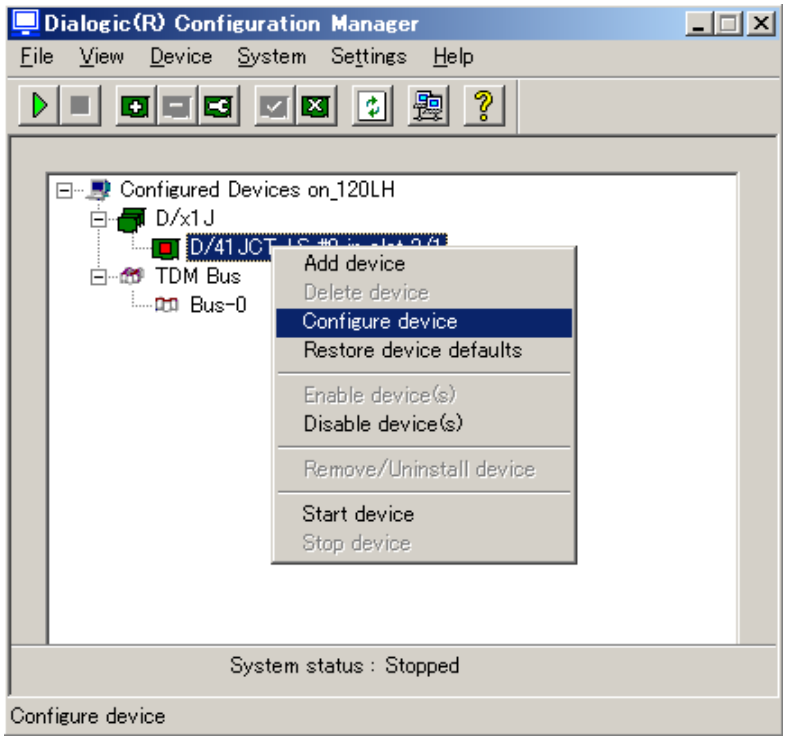
15. TFS ファイルの内容が表示されますので、画面を閉じます。



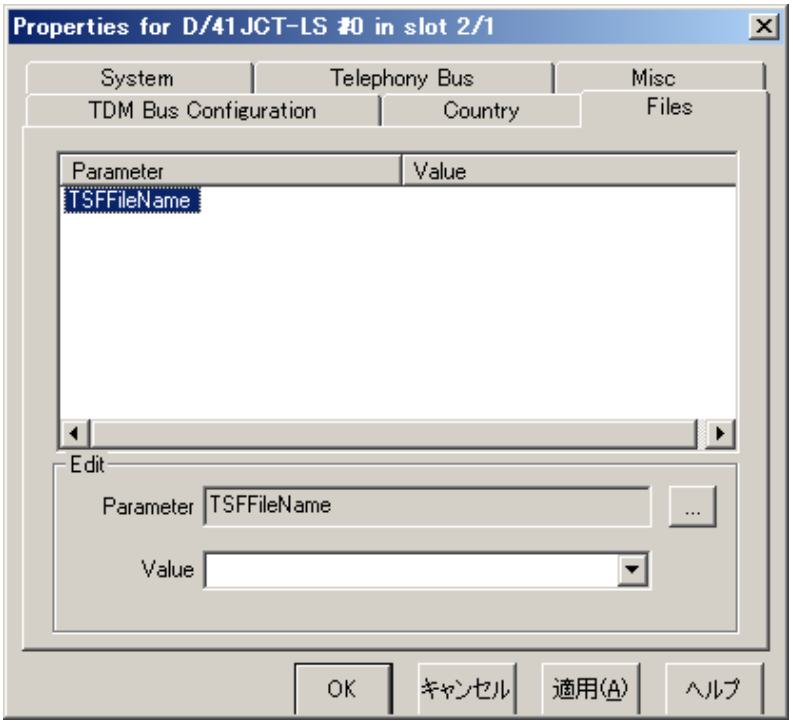
16. DCM サービスを停止します。



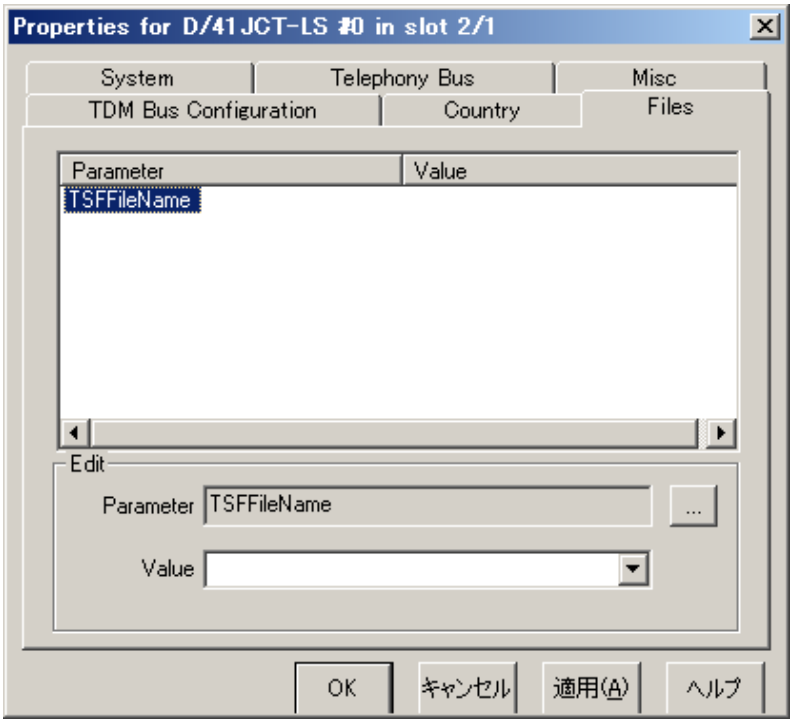
17. 対象ボードを右クリックし、[Configure device]を選択します。



18. [Files]タブを選択し、[TSFFileName]を選択します。



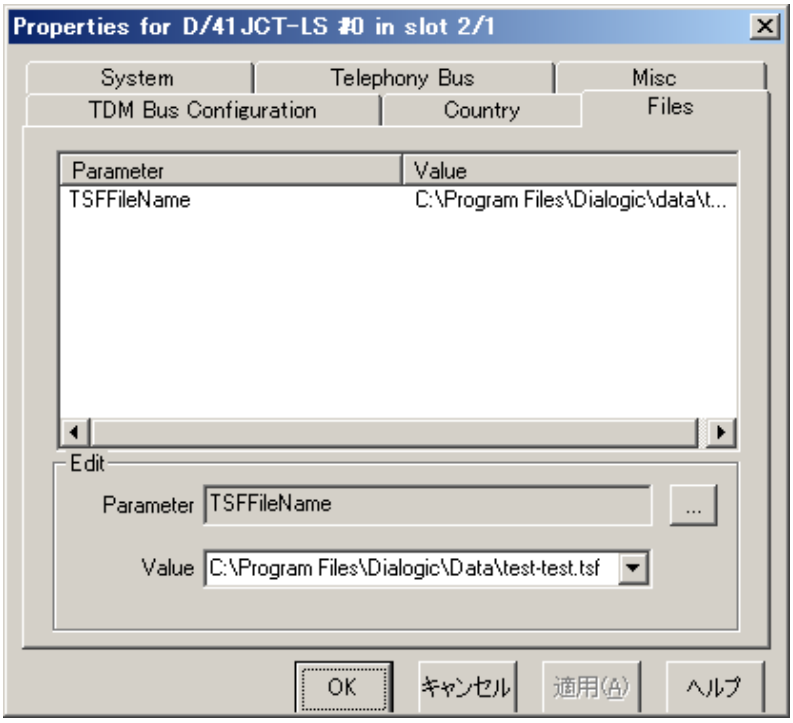
19. [Edit]欄の[Parameter] - [...]をクリックし、先ほど作成した TSF ファイルを選択後、[OK]をクリックします。



注意

> TSF ファイルの内容は設定したボードのみに有効です。

20. 以上で、PBX Expert の設定は完了です。



第９章 注意事項

音声・FAX 処理ボードサポートソフトウェアのサービスに関して、以下の注意事項があります。

(1) アプリケーション開発環境(SDK)について
アプリケーション開発環境(SDK)は、本ソフトウェアの Ver5.0 Rev007 まで添付しておりましたが、Rev008 以降添付しておりません。独自にアプリケーションを開発される場合は、SDK の入手とセミナーを受講(有償)していただき、お客様の責任で開発していただく必要があります。詳細については、PP・サポートサービスまでお問い合わせください。

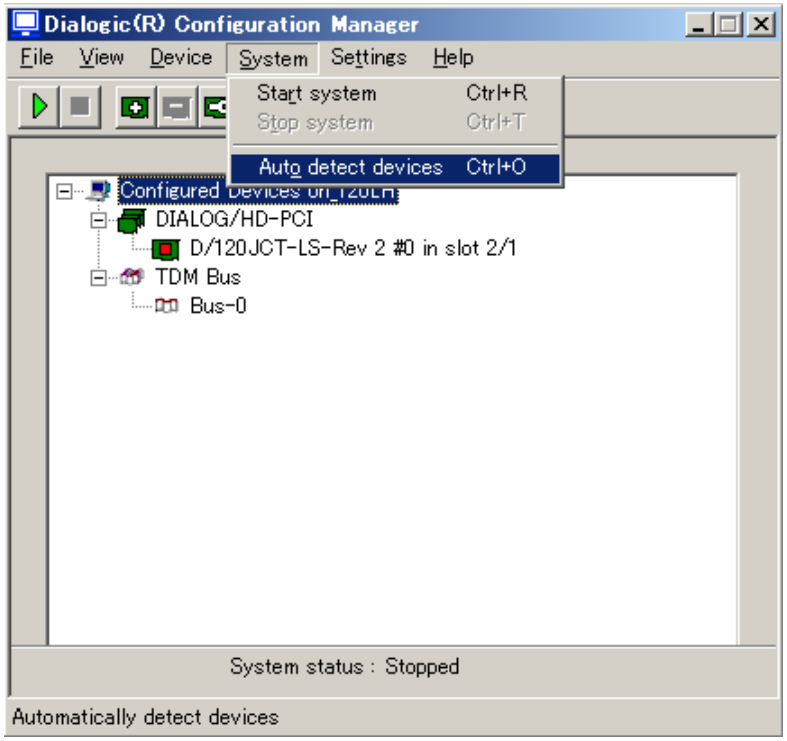
(2) エラーログについて
ソフトウェアのインストール後、OS 起動時や Dialogic Configuration Manager(DCM)を起動すると、以下のエラーがイベントログに記録されることがありますが、運用上問題はありませんので無視してください。

種類：エラー　ソース：ObserverService　イベント ID：1001
種類：エラー　ソース：dcmobj　イベント ID：1001
種類：エラー　ソース：RTFAPI　イベント ID：1001

(3) DCM サービスの自動起動について
OSの機能によるDCMサービスの自動起動では、DCMが正常に動作しない場合があります。DCMの自動起動は「第４章 DCMサービスの開始/停止/自動起動の設定」を参照し、必ずDCMで設定してください。

(4) DCM での音声・FAX 処理ボードの非表示について
DCM にて音声・FAX 処理ボードが表示されない場合、以下の確認を行ってください。

1. DCM を起動後、[System] - [Auto detect devices]をクリックし、デバイスの再検索を行い、音声・FAX 処理ボードが表示されることを確認してください。



2. 項番１にて、ボードが表示されない場合は、ドライバがインストールされていない可能性があります。デバイスマネージャにて[PCI Device]が表示されていないかを確認します。下記の画面のように表示されている場合は、対象デバイスを右クリックし、[ドライバの更新]を選択します。[新しいハードウェアを検出]画面が表示されますので、「第５章 音声・FAX処理ボードの追加/交換」を参照し、デバイスドライバのインストールを行ってください。

(5)　TCP ポートの確認

ループバックインタフェースのために、TCP ポートの 12001、12004、および 12005 と TCP ポート 12002 が利用できることを確認してください。

1. [マイネットワーク]を右クリックし、[プロパティ]を選択します。

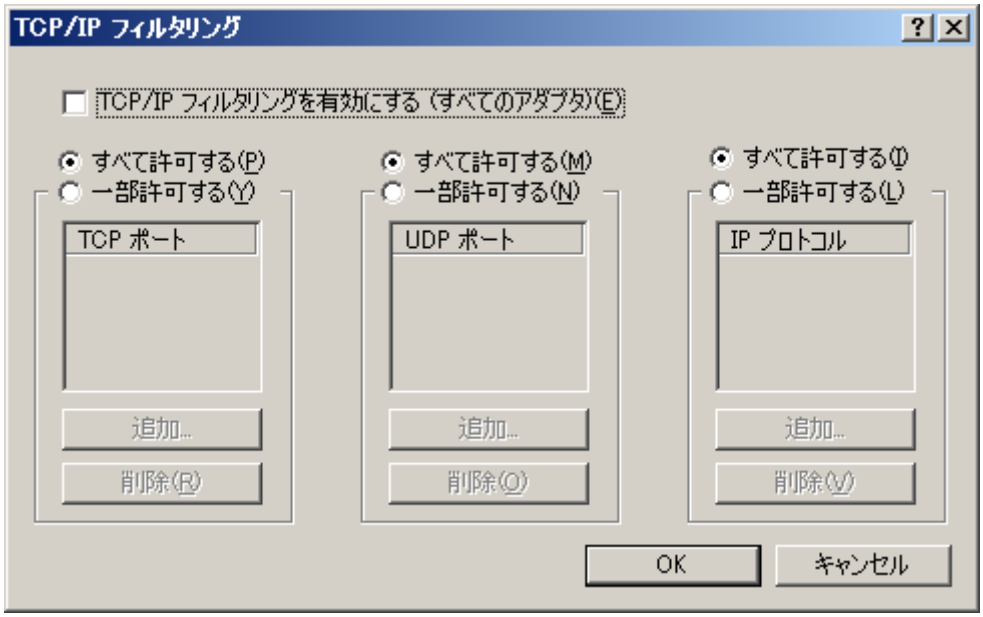
2. [Local Area Connection]を右クリックし、[プロパティ]を選択します。

3. [インターネット プロトコル(TCP/IP)]をクリックし、[プロパティ]を選択します。

4. [全般]タブを開き、の[詳細設定]をクリックします。

5. [オプション]タブを開き、[オプション設定] - [TCP/IP フィルタリング]を選択し、[プロパティ]をクリックします。

6. [TCP/IP フィルタリングを有効にする] のチェックボックスにチェックがない場合、すべてのポートが有効です。チェックボックスにチェックがある場合、TCP ポートの 12001、12002、12004、および 12005 が利用できることを確認してください。



(6)　本製品の破棄について

本製品を破棄する際には、各自治体の指示に従ってください。